

資料編

- 1 津島市環境基本計画策定委員会
- 2 津島市環境基本計画の策定経緯
- 3 津島市の環境の現状
- 4 津島市の環境に関する市民意識
- 5 用語解説

1

津島市環境基本計画策定委員会

(1) 津島市環境基本計画策定委員会要綱

(設置)

第1条 津島市環境基本計画（以下「計画」という。）を策定するため、津島市環境基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、計画の策定に関し、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 環境の現況及び課題並びに環境に関する意識調査に関すること。
- (2) 環境目標、環境施策及び計画の推進に関すること。
- (3) 計画書に関すること。
- (4) その他環境保全の施策に関すること。

(委員)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

- 2 委員は、学識を有する者、市民並びに事業所、各種団体及び関係機関の代表者のうちから市長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、平成28年3月31日までとする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会においては、委員長が議長となる。
- 3 委員長（委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する者）及び半数以上の委員が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。
- 4 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(資料提出の要求等)

第6条 委員会は、その所掌事務を遂行するため必要と認めるときは、関係部局に対し、資料の提出、説明その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、生活産業部生活環境課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成26年9月18日から施行する。
- 2 この要綱の施行後最初に開く会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

(2) 委員名簿

選任区分	氏名	所属
学識者	○千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部
市民	飯田 政敏	西小学校区コミュニティ推進協議会
	三輪田邦子	神守小学校区コミュニティ推進協議会
	長尾 一男	神島田小学校区コミュニティ推進協議会
事業者	香川 二郎	昭和機械株式会社
	小林 正治	あいち海部農業協同組合
各種団体	佐々木和治	愛知県地域環境保全委員
	橋本 貴代	愛知県地域環境保全委員
	大石美智子	津島市環境市民委員会
	松永真希子	社会福祉法人永美福祉会唐臼保育園
	山内 則子	津島市女性の会
関係機関	近藤 了	愛知県尾張県民事務所海部県民センター（平成 27 年度）
	柘植 孝之	愛知県尾張県民事務所海部県民センター（平成 26 年度）
	石村真一郎	津島市教育委員会学校教育課（平成 27 年度）
	木全 孝	津島市教育委員会学校教育課（平成 26 年度）

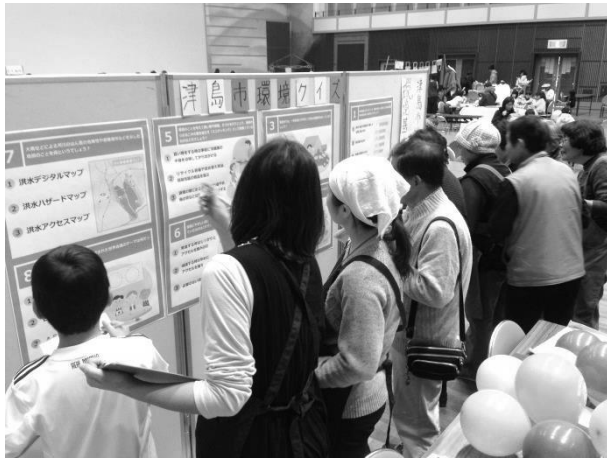
○：委員長

2

津島市環境基本計画の策定経緯

日にち	内容
平成26年 11月18日(火)	津島市環境基本計画策定委員会（第1回） ・津島市環境基本計画及び津島市環境基本計画策定委員会の説明 ・津島市の環境に関する市民意識調査の実施に関する協議
12月5日(金)～ 12月26日(金)	津島市の環境に関する市民意識調査 ・市民（18歳以上）2,000人、小中学生536人、事業者300社 ・調査票回収：1,725件（回収率60.8%）
平成27年 3月6日(金)	津島市環境基本計画策定委員会（第2回） ・津島市の環境に関する市民意識調査及び基礎調査の結果報告 ・津島市の環境に関する取組みの整理と現行計画の検証 ・津島の環境に関するワークショップ ・基本理念・基本目標に関する協議
5月18日(月)	津島市環境基本計画策定委員会（第3回） ・計画策定スケジュールの了承 ・策定委員会（第2回）の振り返り ・施策体系及び目次構成に関する協議
8月6日(木)	津島市環境基本計画策定委員会（第4回） ・策定委員会（第3回）の振り返り ・計画の骨子原案の確認 ・議論の論点整理及び協議 論点1：基本理念・基本目標 論点2：リーディングプロジェクト
10月23日(金)	津島市環境基本計画策定委員会（第5回） ・策定委員会（第4回）の振り返り ・計画（素案）に関する協議 ・リーディングプロジェクト、計画の推進体制の修正報告・協議 ・市民説明会の概要説明 ・パブリックコメントの概要説明
12月6日(日)	津島市環境基本計画説明会（津島市消費者生活展） ・津島市環境クイズ 参加者：159人 ・燃料電池自動車（FCV）「MIRAI」展示 ・津島市環境市民委員会との協働事業（自転車発電機体験コーナー、津島の環境の将来像の意見聴取、津島市環境市民委員会10年のあゆみ展示等）
12月14日(月)～ 平成28年 1月13日(水)	パブリックコメント ・閲覧場所：津島市ホームページ、市役所本庁舎（生活環境課窓口）、神守支所、神島田連絡所 ・公表資料：津島市環境基本計画（案）の概要、津島市環境基本計画（案） ・募集結果：0件

日にち	内容
1月31日(日)～ 2月 8日(月)	津島市環境基本計画推進ポスターコンペ作品展示（ヨシツヤ津島本店1階^他） ・名古屋芸術大学との官学協働企画として、計画の基本理念と5つの基本目標をもとに、地域の持つ環境の力やその保全のためにできることのヒントを同大学の学生がデザインして制作したポスターを展示し、市民投票を実施
2月23日(火)	津島市環境基本計画策定委員会（第6回） ・策定委員会（第5回）の振り返り ・津島市環境基本計画説明会及びパブリックコメントの実施結果の報告 ・津島市環境基本計画（案）の確認 ・津島市環境基本計画推進ポスターコンペ入賞作品の選考



3

津島市の環境の現状

(1) 基礎的条件

① 近年の国内における環境行政の主な動向

- 環境問題は、高度経済成長期には大気汚染や水質汚濁等の公害問題が主なものでしたが、その後、地球温暖化やヒートアイランド現象の進行、生物多様性の損失など、社会・経済状況とともに変化してきました。更に、平成 23 年 3 月に東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故が発生し、災害廃棄物の処理や電力の安定供給の確保等の新たな問題が顕在化してきました。
- 平成 24 (2012) 年、国は「第四次環境基本計画」を策定しました。この計画には、“安全”の確保を前提に、低炭素・循環・自然共生の各分野を統合的に達成して持続可能な社会を実現する視点が盛り込まれました。
- 平成 26 (2014) 年 5 月、愛知県は「第 4 次愛知県環境基本計画」を策定し、“環境と経済の調和のとれたあいち” “安全で快適に暮らせるあいち” “県民みんなが行動するあいち” の 3 つのあいちを基調とした地域づくりを進めることで、2030 年に向けた計画目標である「県民みんなで未来へつなぐ『環境首都あいち』」の実現を目指しています。

- 愛知県では、平成 17 (2005) 年、史上初めてとなる環境をテーマとした国際博覧会「2005 年日本国際博覧会 (愛知万博)」が開催されました。愛知万博では、環境に配慮した会場づくり、環境負荷の少ない交通システムや新エネルギーの導入、企業や県民の自主的な参加による環境への様々な取組みが展開され、環境意識の向上に大きく貢献しました。また、身近な里山の保全、公園や道路の環境美化など、市民団体や企業による様々な環境保全の活動が取り組まれ、県民が自発的に環境保全活動に参加する契機となりました。

- 平成 22 (2010) 年、生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) が開催され、生物多様性の保全をはじめとする環境意識の一層の向上とともに、「名古屋議定書」や「愛知目標 (愛知ターゲット)」を策定し、生物多様性の保全に先導的に取り組む地域として世界にアピールしました。

- 平成 26 (2014) 年 11 月には「持続可能な開発のための教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」が開催されました。持続可能な開発をあらゆるレベルで具体化していくためには、人づくり、とりわけ教育が重要であり、「持続可能な社会を支える担い手づくり」をテーマとしたこの会議を機に ESD の認知が進みました。

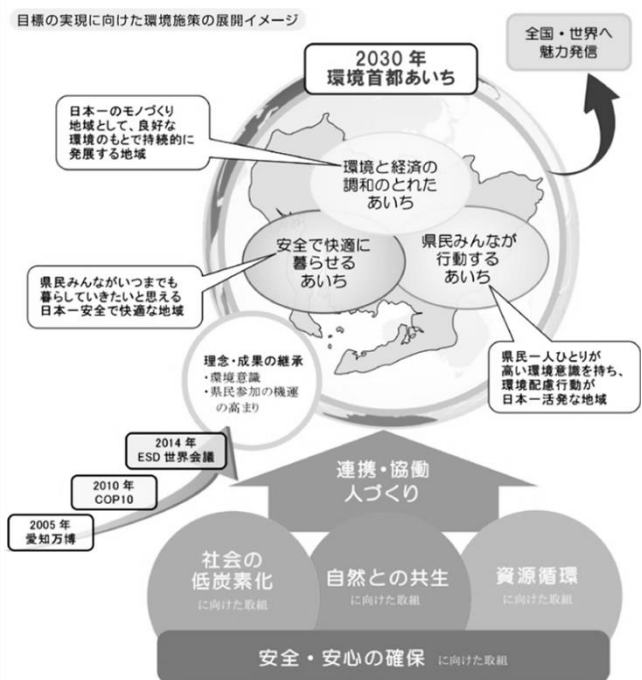


図 第 4 次愛知県環境基本計画における目標の実現に向けた環境施策の展開イメージ
資料：愛知県「第 4 次愛知県環境基本計画」

② 位置・地勢

- 津島市は、濃尾平野の西部、名古屋市の西方約16kmに位置し、市域は南北7.25km、東西7.30km、面積は25.09km²を有しています。
- 地質は木曾川、長良川、揖斐川等の河川によって堆積した沖積層からなる三角州平野で、地形的には市域のほとんどが起伏の少ない海拔ゼロメートル以下の低地です。また、中央部を南北に縦断する天井川である日光川をはじめ、日光川水系の河川が流れています。
- 気候は春・秋は過ごしやすく、夏は高温多湿で蒸し暑く、冬は北西の風が強く吹きます。市域には田畑が多く、様々な野鳥や植物を見ることができます。また、天王川公園周辺では、春の桜、初夏の藤、秋の紅葉、冬の雪景色といった四季折々の自然の情緒を味わうことができます。

③ 人口・世帯数

- 津島市は、平成27年1月1日時点において、人口64,450人、総世帯数25,579世帯です。
- 世帯数は増加傾向にある一方で、人口はわずかに減少傾向にあります。世帯人員は、核家族化の進行や単身世帯の増加等により、減少傾向にあります。
- 今後は出生数の減少や団塊の世代の加齢等により、少子高齢化が一層進むと見込まれ、将来人口の推計値は平成32年で61,200人となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所による平成52年(2040年)の将来人口の推計値は、約53,000人とされています(平成25年3月推計)。

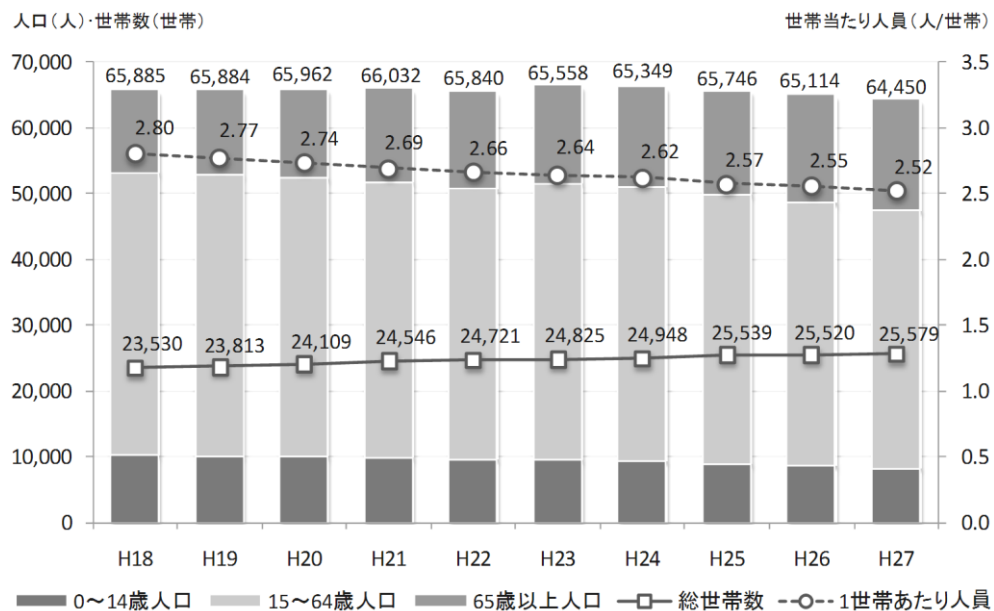


図 年齢別人口・世帯数・世帯人員の推移

資料：津島市「津島の統計(住民基本台帳登録人口)」

④ 産業構造

- 15歳以上の就業人口は、過去20年間ほぼ横ばいで推移しています。平成22年の産業分類別就業人口では、第三次産業が19,962人と約64%を占めています。
- 平成22年時点の農家数は、専業農家が114戸、兼業農家が486戸となっていますが、特に兼業農家は平成2年の約1/3に減少しており、経営耕地面積も減少が進んでいます。
- 製造業の製造品出荷額は、平成20年までは増加傾向でしたが、平成21年はリーマンショック、平成23年は東日本大震災によると考えられる減少がみられます。

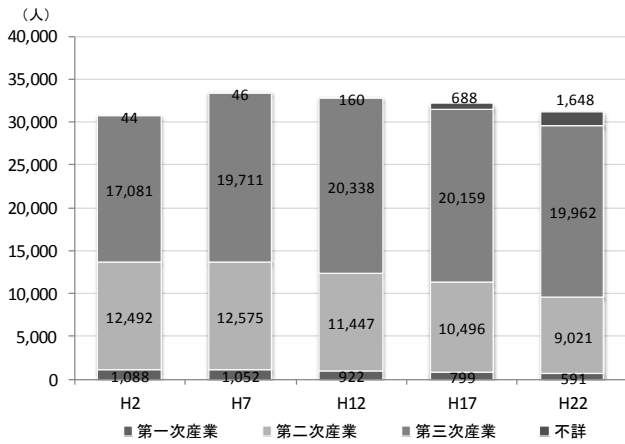


図 産業別就業人口

資料：総務省統計局「国勢調査」

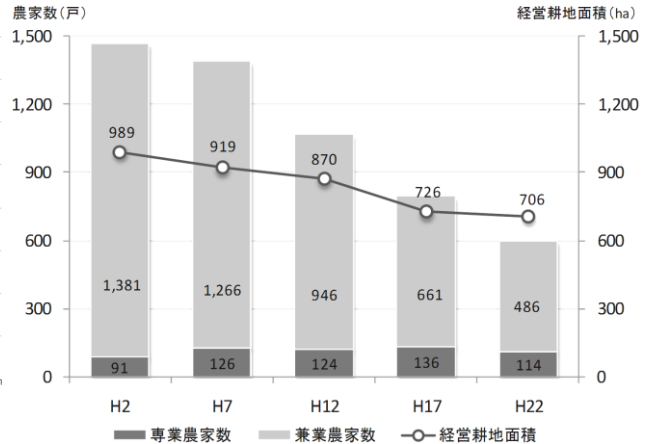


図 専業・兼業農家数と経営耕地面積

資料：農林水産省「農林業センサス」

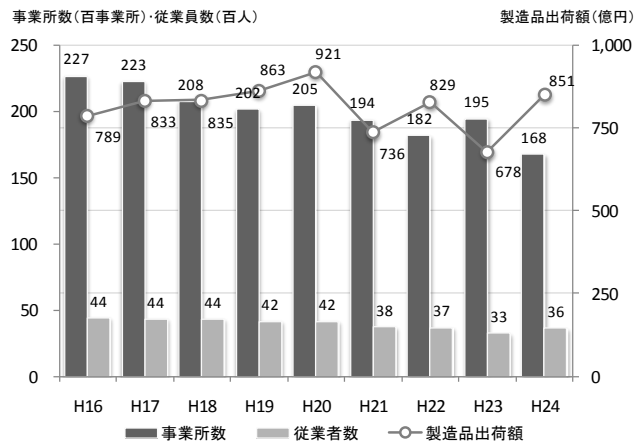


図 製造業の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等の推移

資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「経済センサスー活動調査」

⑤ コミュニティ推進協議会

○津島市では、地域の人たちや様々な団体の英知とエネルギーを一つにし、連携し、一体となって活動を進めていくために、市内の小学校区毎に「コミュニティ推進協議会」を組織しています。

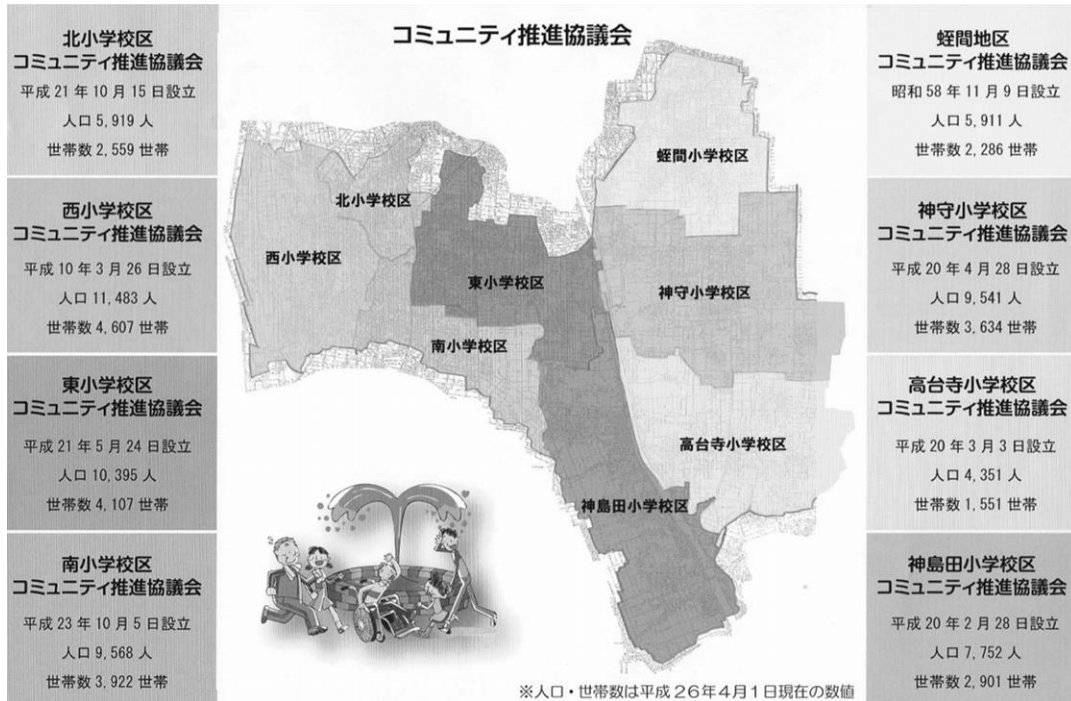


図 コミュニティ推進協議会

出典：津島市「地域コミュニティの“わ”を広めませんか？」

(2) 自然環境

① 自然環境全般

- この地域は、木曾川、長良川、揖斐川等の河川によって堆積した沖積層からなる三角州平野で起伏が少なく、高度成長期の地下水利用の急増により、市域の大部分は海拔ゼロメートル以下となっています。
- 市西部の旧木曾川（佐屋川）河道付近には、市内で最も大きな自然堤防があり、この地形に沿って形成された緑濃い集落地や堤防上の松並木は、治水の歴史を今に伝える緑です。これらの緑が一部途切れつつも、天王川公園及びその周辺や津島神社等に見られるまとまった緑と一体となり、緑のつながり（軸）を形成しています。大川に比較的近く、自然堤防の樹林等を含むことから、生物の多様性に富んだエリアとなっています。
- 市東部では、まとまった農地の緑や点在する集落地内に見られる社寺林、大小の河川や水路が緑の要素となっています。神守地区は農村地帯に住宅地が広がり、徐々に市街地へと変貌しているため、生物の多様性はやや低く、神島田地区は農地の割合が高いことから、低湿地や農地周辺の生物が比較的多く生息しています。

② 気象

- この地域の気候は、高温多雨の時期と寒冷少雨の時期があり、冬季には、北西の季節風が強く吹き、乾燥する特徴があります。
- 年平均気温（平成 21 年～平成 25 年）は 15.6℃で、月別気温の最低は 3.6℃（1 月）、最高は 28.6℃（8 月）です。年平均降水量（平成 21 年～平成 25 年）は 1,776.6mm で、月別降水量の最多は 255.3mm（9 月）、最少は 43.0mm（1 月）です。
- 年平均気温は、100 年間で約 1.7℃の上昇が観測されています（名古屋地方気象台）。このような気温上昇は、近年のゲリラ豪雨の増加等に影響を与えていると考えられています。また、世界全体では約 0.8℃、日本全体では約 1.1℃の上昇となっており、津島市の周辺ではこれらを上回る気温の上昇が起きていることが分かります。

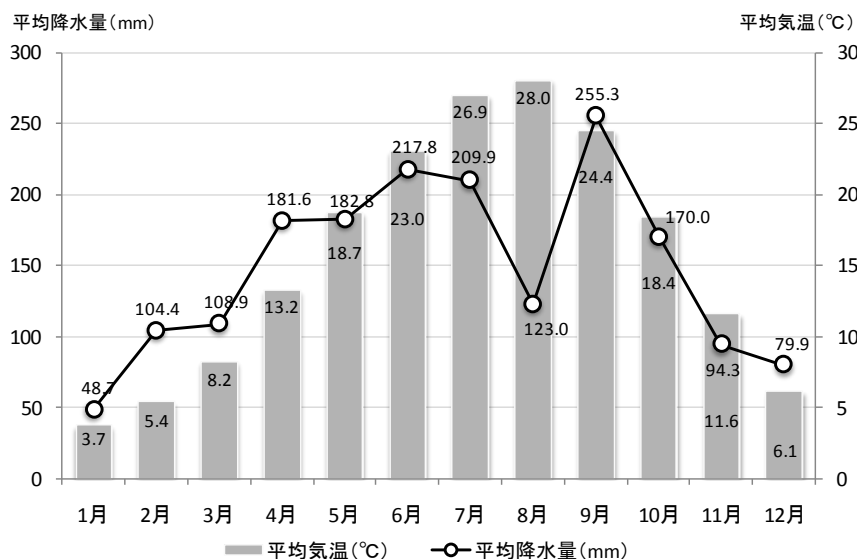


図 月別降水量と平均気温（平成 21～25 年の 5 年間の平均値）

資料：気象庁「愛西地域気象観測所気象データ」

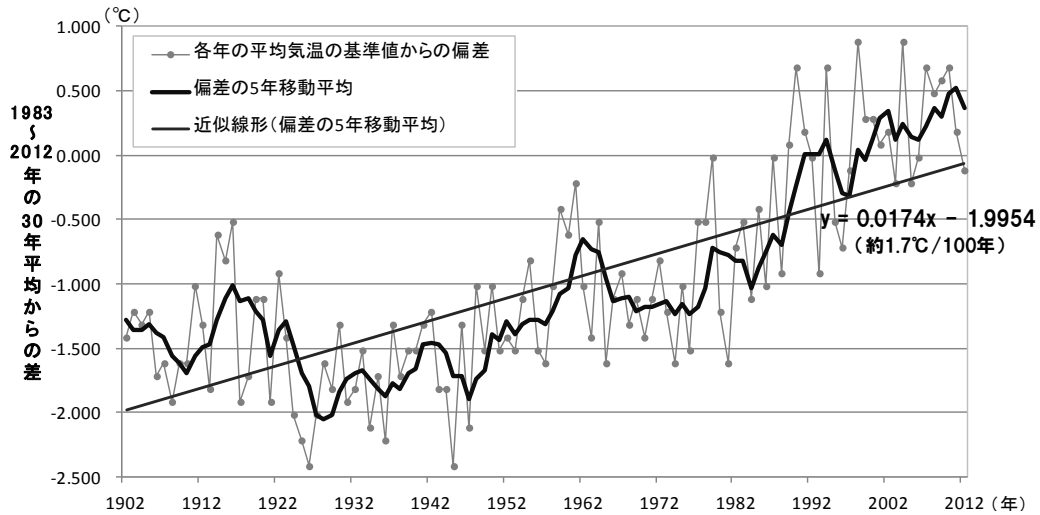


図 年平均気温偏差の推移（名古屋地方気象台）

資料：気象庁「名古屋気象台観測データ」

③ 土地利用

- 平成 24 年の農地（田・畑）の面積は 890ha で、市全体の 35.4%を占めており、海部地区 7 市町村（津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村）の平均（37.1%）とほぼ同程度です。
- 日光川以西については、西部で花きやいちごなどの園芸作物と水稻が、南部の神島田地区では水稻が多く栽培されています。日光川以東の神守地区では、北部で野菜が、中南部で水稻が多く栽培されています。
- 平成 17 年以降の土地利用の面積増減をみると、宅地は 1.1%増加、田は 1.7%減少しており、県平均（宅地 0.8%増、田 0.6%減）の値よりもその傾向は強くなっています。

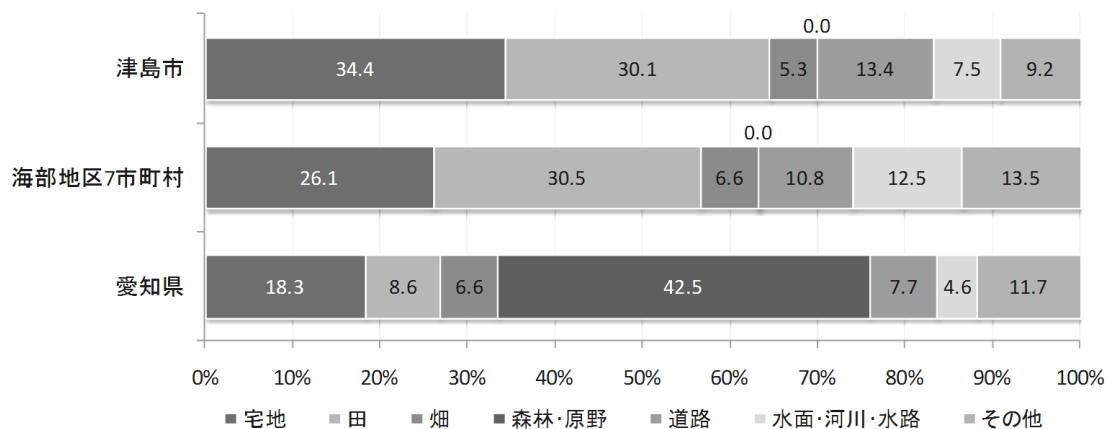


図 地目別土地利用面積（平成 24 年）

資料：愛知県統計課「平成 19 年度～平成 26 年度愛知県統計年鑑」

④ 水辺地

- 水辺地や農地等はサギ類やカモ類の採食適地となっており、このような場所はカエル類やトンボ類を含む多様な生物が生息できる条件にあります。
- 市内を流れる河川は治水・防災機能を重視して整備されているものの、日光川や水路及び水辺の緑地、農地等は、野生生物の生息に適した空間となっています。

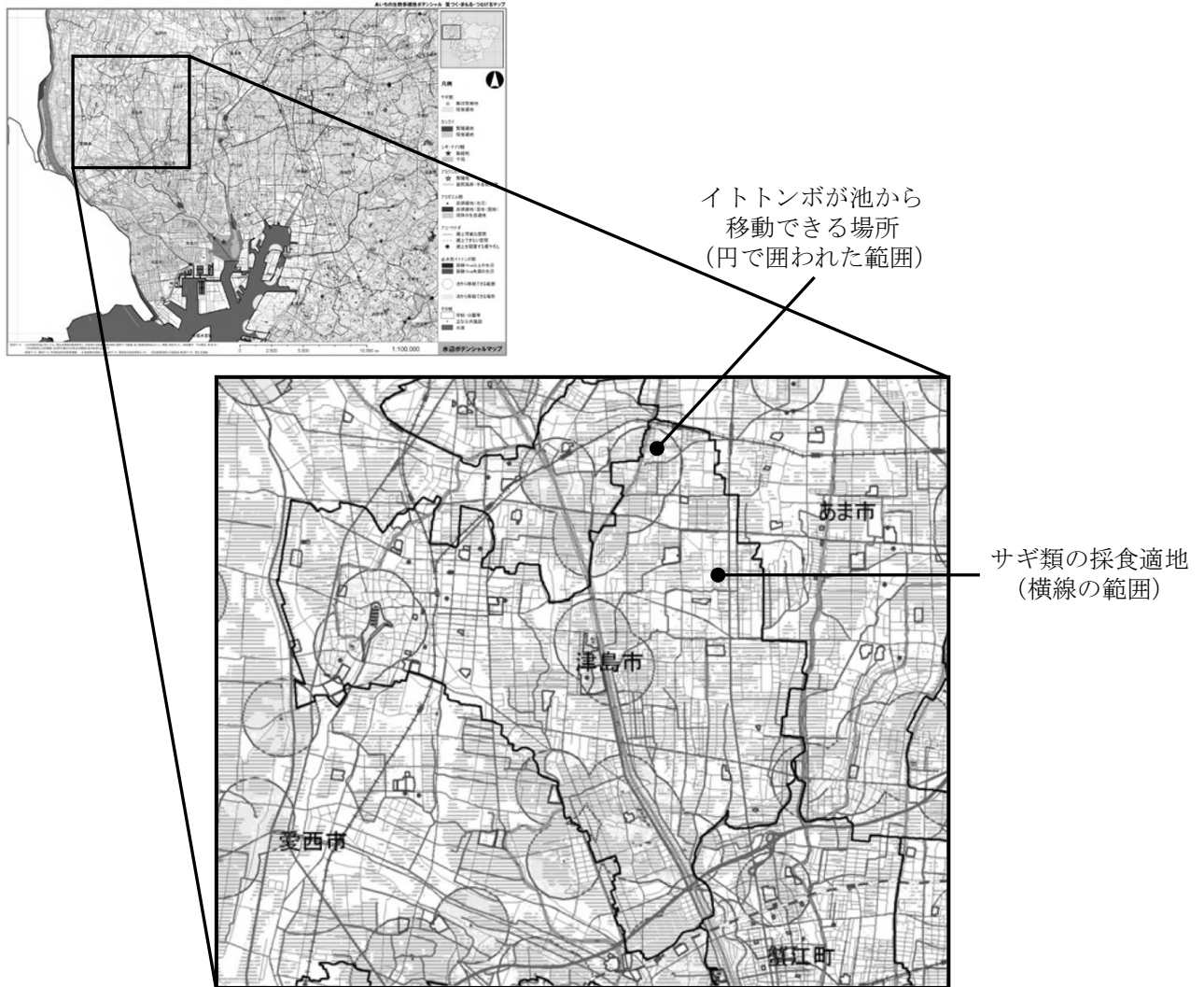


図 水辺ポテンシャルマップ

出典：愛知県自然環境課「あいちの生物多様性ポテンシャルマップ」

⑤ 動植物・生態系

- 天然記念物は、下新田のフジや津島神社のイチヨウをはじめとして、ホルトノキ、カジノキ、エノキといった樹木が多く指定されています。
- ナゴヤダルマガエルやメダカ、コウホネ、アサザ等の希少種が市内で確認されており、また、市周辺でも絶滅のおそれのある動植物が確認されています（下表）。
- 生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすおそれのある特定外来生物は、以前から確認されていますが、アライグマの目撃情報が増加したり、近隣地域でセアカゴケグモの移入が確認されるなど、目に見える変化が生じてきています。

表 津島市周辺における絶滅のおそれのある主な動植物

分類	種名	目名	科名	県ランク	国ランク	
動物	哺乳類	ハタネズミ	齧歯（ネズミ）	キヌゲネズミ	準	-
	両生類	ナゴヤダルマガエル	無尾（カエル）	アカガエル	II	IB
	昆虫類	ヤマトモンシデムシ	コウチュウ	シデムシ	II	準
		タガメ	カメムシ	コオイムシ	IB	II
		カワラハンミョウ	コウチュウ	ハンミョウ	IA	II
		オオヒョウタンゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	II	準
		オオクワガタ	コウチュウ	クワガタムシ	IA	II
	クモ類	キバネキバナガミズギワゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	準	準
	コガネグモ	クモ	コガネグモ	準	-	
	植物	キノガワシウド	セリ	セリ	IA	-
エキサイゼリ		セリ	セリ	IA	準	
ミズアオイ		ユリ	ミズアオイ	IA	準	
ホザキマスカサ		カヤツリグサ	カヤツリグサ	IA	II	
サンショウモ		シダ	サンショウモ	IB	準	
オオアカウキクサ		シダ	アカウキクサ	IB	II	
ノダイオウ		タデ	タデ	IB	準	
フジバカマ		キク	キク	IB	準	
トチカガミ		イバラモ	トチカガミ	IB	準	
ミズタカモジ		イネ	イネ	IB	II	
ホソバイヌタデ		タデ	タデ	II	準	
マルバタネツケバナ		フウチョウソウ	アブラナ	II	-	
オグラノフサモ		フトモモ	アリノトウグサ	II	II	
コウガイモ		イバラモ	トチカガミ	II	-	
ササバモ		イバラモ	ヒルムシロ	II	-	
カモノハシ		イネ	イネ	II	-	
セイタカハリイ		カヤツリグサ	カヤツリグサ	II	-	
ピロードテンツキ		カヤツリグサ	カヤツリグサ	II	-	
キヌヤナギ		ヒノキ	ヤナギ	準	-	
ナガバノウナギツカミ		タデ	タデ	準	準	
カワラアカザ		ナデシコ	アカザ	準	-	
ミズタガラシ		フウチョウソウ	アブラナ	準	-	
タコノアシ		ユキノシタ	ユキノシタ	準	準	
カワラサイコ		バラ	バラ	準	-	
オオアブノメ		ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	準	II	
チャシバスケ		カヤツリグサ	カヤツリグサ	準	-	
コギシギシ		タデ	タデ	II	II	
ニッケイ		クスノキ	クスノキ	準	準	
コイヌガラシ		フウチョウソウ	アブラナ	準	準	
ウスゲチョウジタデ		フトモモ	アカバナ	準	準	
ミゾコウジュ		シソ	シソ	準	準	
カワヂシャ		ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	準	準	
ミズオオバコ		イバラモ	トチカガミ	II	II	
ナガボテンツキ		カヤツリグサ	カヤツリグサ	IA	-	
コウホネ		スイレン	スイレン	IB	-	
アサザ		ナス	ミツガシロ	IB	準	
シバナ		イバラモ	シバナ	準	準	
ミズマツバ		フトモモ	ミソハギ	II	II	
イヌノフグリ		ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	II	II	
ウラギク		キク	キク	II	II	
リュウノヒゲモ	イバラモ	ヒルムシロ	準	準		
コケ類	ウキゴケ	ウキゴケ	II	準		

資料：愛知県「レッドデータブックあいち 2009」

表 海部地域で確認されている主な特定外来生物

動物	ほ乳類	鳥類	両生類	魚類	植物
	ヌートリア、アライグマ	ソウシチョウ	ウシガエル	カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス	アレチウリ、オオフサモ、オオキンケイギク、ミズヒマワリ

資料：愛知県「STOP! あいちの外来種 移入種対策ハンドブック」

参考：「レッドデータブックあいち 2009」の津島市域を含む地図メッシュデータにおいて、主に県ランクが「準絶滅危惧」以上のものを掲載

- 【ランクの凡例】
- ・絶滅危惧ⅠA類：「ⅠA」
 - ・絶滅危惧ⅠB類：「ⅠB」
 - ・絶滅危惧Ⅱ類：「Ⅱ」
 - ・準絶滅危惧：「準」

(3) 生活環境

① 公害苦情

- 平成 25 年度の公害苦情件数は 136 件で、前年度に比べ 7 件増加しています。
- 典型 7 公害（大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・振動・地盤沈下・悪臭）の種類別では、大気汚染の苦情が最も多く、平成 24 年度では、公害苦情全体に対する大気汚染の苦情の割合は、愛知県全体と比べ約 1.5 倍の割合となっています。これらは主に野焼きに対する苦情であり、排出ガス・排煙や粉塵によるものは多くありません。

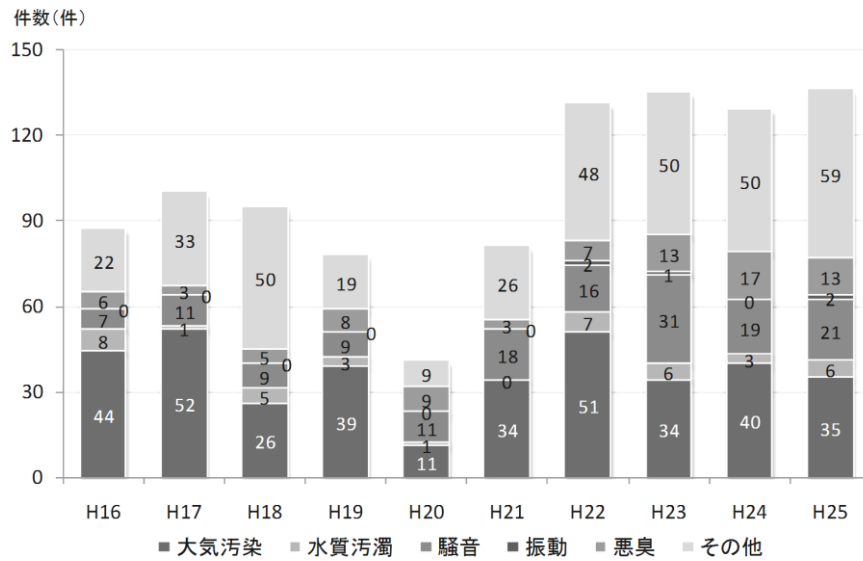


図 公害苦情件数

資料：津島市「津島の統計」

② 大気環境

- 主に工場等の稼働により発生する二酸化硫黄（SO₂）と二酸化窒素（NO₂）は、環境基準を達成していますが、浮遊粒子状物質（SPM）は、黄砂の飛散の影響があり、平成 23 年度に基準を達成できませんでした。
- 光化学オキシダントは、いずれの年も環境基準を達成していません。なお、全国的にも環境基準を達成している測定局は 1%未満であり、対策が困難な大気汚染の一つです。
- 微小粒子状物質（PM2.5）は、平成 25 年 12 月から愛知県においても常時監視が行われるようになりました。

表 大気汚染物質の環境基準達成状況（津島市埋田町）

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
二酸化硫黄(SO ₂)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二酸化窒素(NO ₂)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
浮遊粒子状物質(SPM)	○	○	○	○	○	○	×	○	○
光化学オキシダント	×	×	×	×	×	×	×	×	×

資料：愛知県「あいちの環境」（愛知県津島市埋田町観測所）

③ 水環境

○水質の有機汚濁の代表的な指標である生物化学的酸素要求量（BOD）は、改善傾向にあります。
○環境基準 E 類型が適用される日光川（日光橋）では、10mg/L 以下の環境基準を満たしています。

日光川以西の河川では、この数年間は 10mg/L 以下となっており、日光川以東の河川では、10mg/L を超える地点はありますが、全般に改善の傾向がみられます。

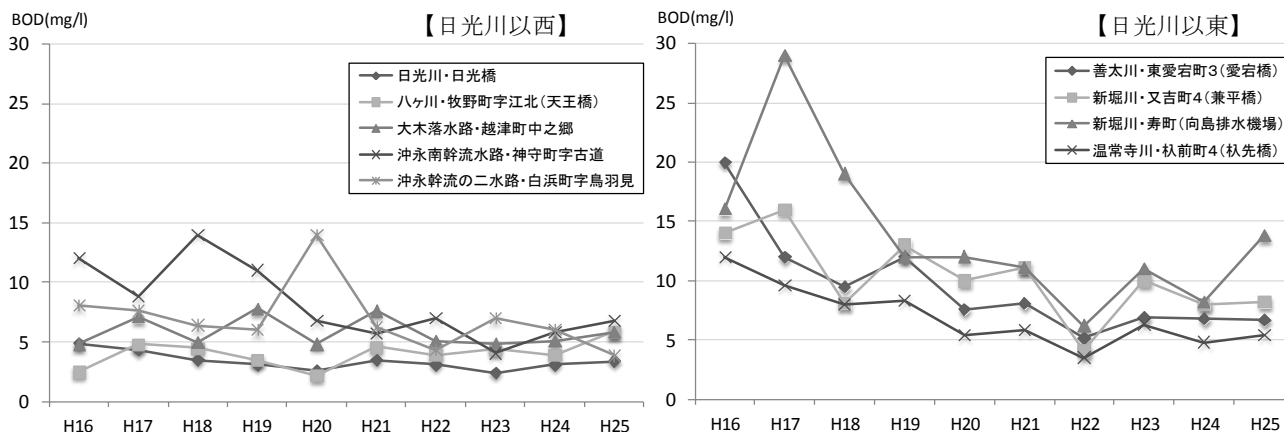


図 市内の水質調査地点における BOD 値（年平均値）

資料：津島市「津島の統計」

④ 騒音・振動・悪臭

○感覚公害である騒音・振動・悪臭は、生活様式や社会環境の変化とともに問題となることが増えていっています。これらは公害苦情件数の多くを占め（平成 25 年度 26.5%）、近年は若干増加傾向にあります。なお、津島市では、国や県全体と比較すると、公害苦情に占める割合が低い傾向があります（平成 24 年度）。

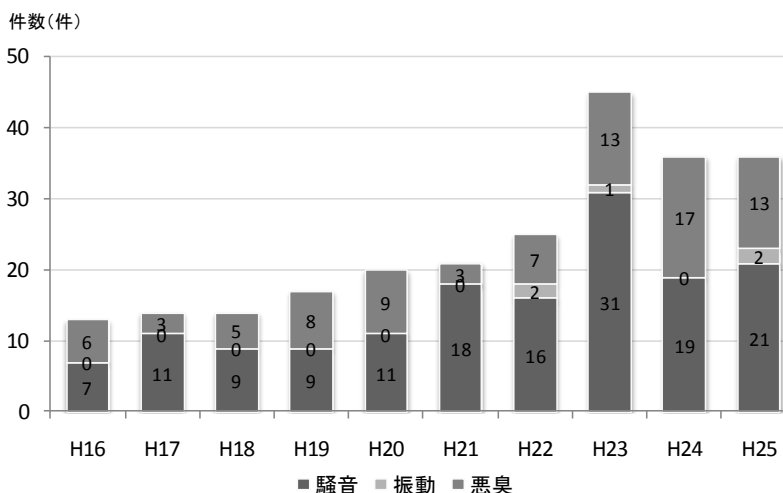


図 騒音・振動・悪臭の苦情件数の推移

資料：津島市「津島の統計」

⑤ 地盤沈下

- 地下水の過剰な汲み上げ等によって起こる地盤沈下は、昭和40年代に顕著であったものの、昭和50年代以降、沈下の速度が鈍化し、昭和60年代以降は沈静化してきています。
- 平成15年度から10年間の市内12地点での標高の推移をみると、沈下の傾向がごくわずかにみられます。
- 地盤沈下の観測のため、市内3箇所（埋田町・城山町・神守町）の観測所で地盤沈下量と地下水位を継続的に測定しています。

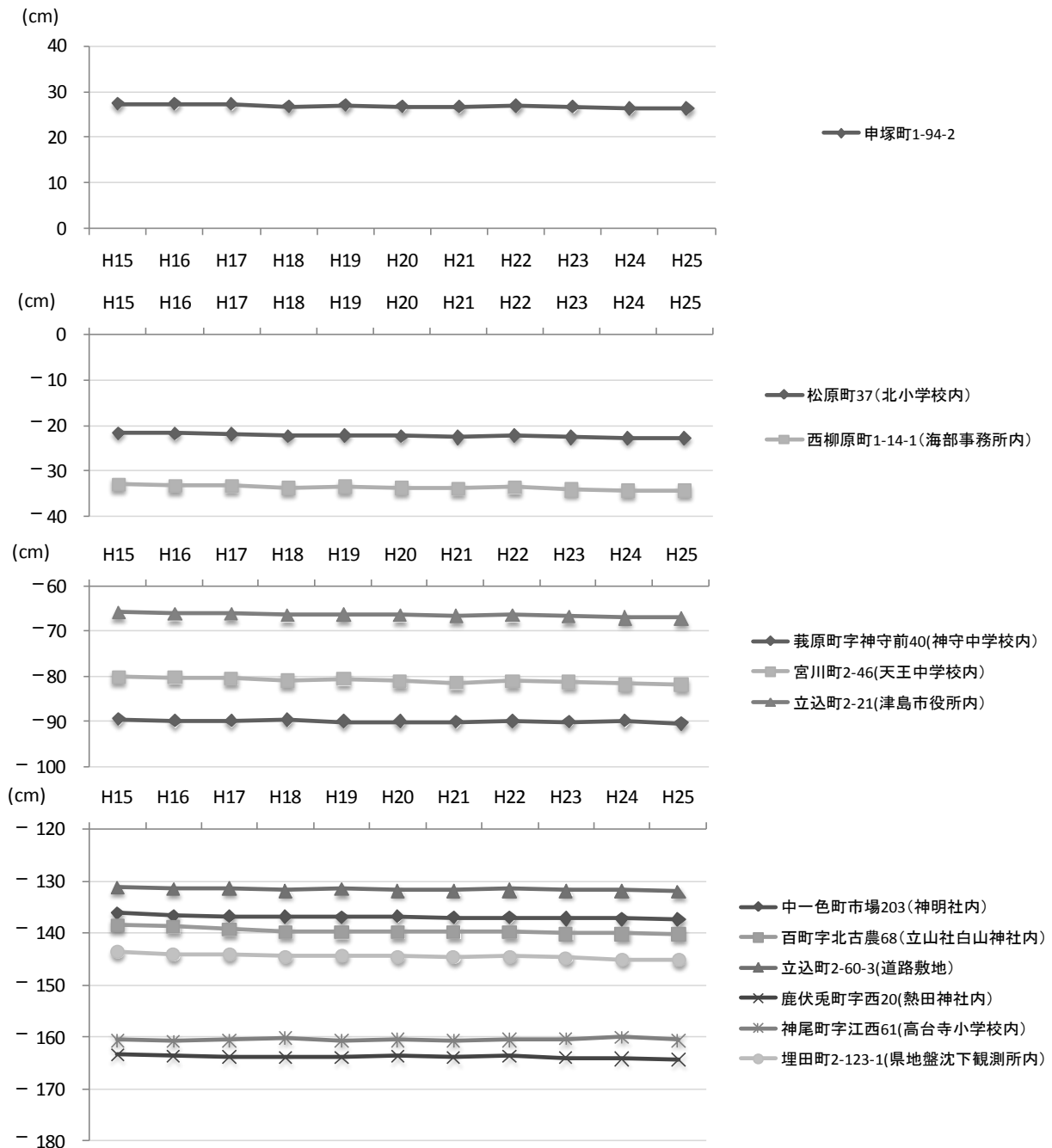


図 市内の地盤沈下の状況（標高の推移）

資料：津島市「津島の統計」

⑥ ごみ処理

- ごみ総排出量は、平成 24 年度現在 21,106t であり、近年は減少傾向にあります。これは、愛知県や全国平均と同様の傾向を示しています。
- 1人1日当たりのごみの排出量は、平成 24 年度現在 877g/人・日であり、最近 9 年間は県平均を若干下回っています。
- リサイクル率は、平成 24 年度現在 16.7%であり、減少傾向にあります。近年では、県平均を大きく下回っています。

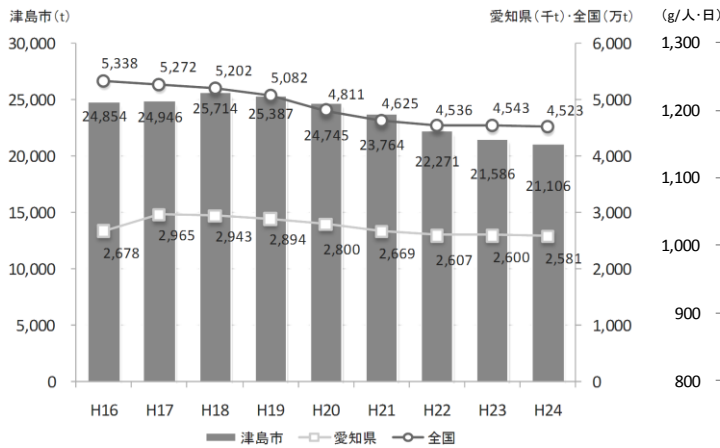


図 ごみ総排出量の推移

資料：津島市「津島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」
愛知県・環境省「一般廃棄物処理実態調査 調査結果」

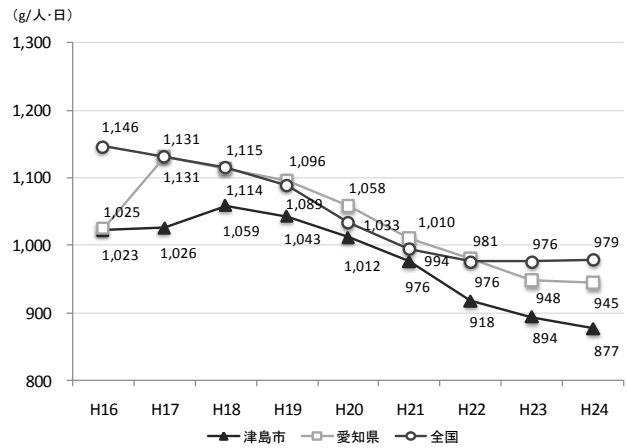


図 1人1日当たりごみ排出量の推移

資料：津島市「津島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」
愛知県・環境省「一般廃棄物処理実態調査 調査結果」

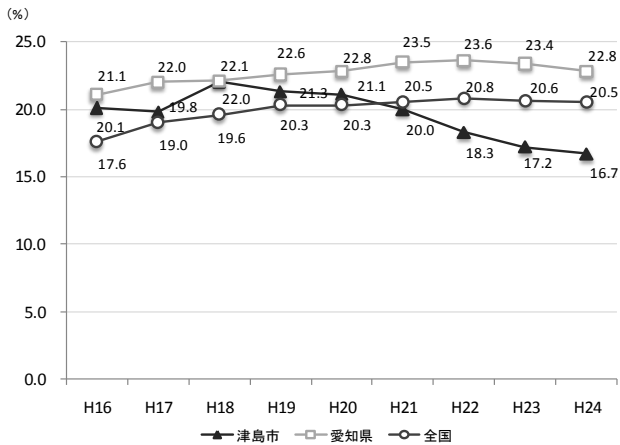


図 リサイクル率の推移

資料：津島市「津島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」
愛知県・環境省「一般廃棄物処理実態調査 調査結果」

⑦ 生活排水処理

- 家庭から出る生活排水を下水道、合併処理浄化槽又はコミュニティ・プラントによって汚水処理を行い、公共用水域に排出すれば、水環境の向上につながります。一方、し尿のみを処理する単独処理浄化槽やくみ取り便所である場合は、生活雑排水が未処理のまま水路や河川に流入することとなります。
- これらの処理の指標となる汚水処理人口普及率は、68.3%（平成 25 年度）で、全国平均（88.9%）、愛知県平均（87.6%）と比較しても低い割合となっています。
- 下水道は、昭和 39 年に中心市街地で供用開始され、平成 21 年からは流域関連公共下水道の供用が開始されました。下水道普及率は、平成 25 年度末において 30.8%であり、全国平均（76.3%）、県平均（74.7%）を大きく下回っているものの、流域関連公共下水道の整備に伴い、向上しています。

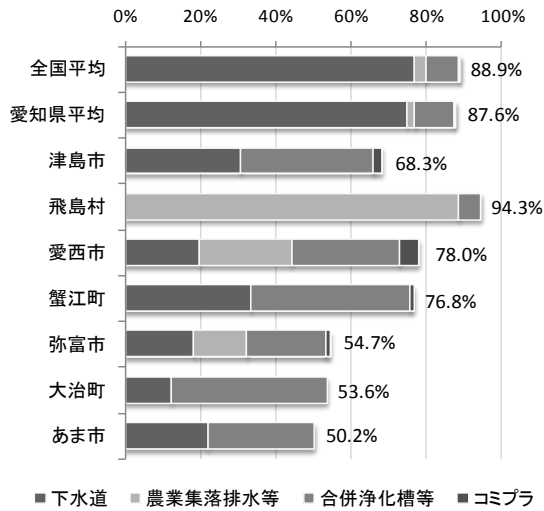


図 汚水処理人口普及率（平成 25 年度）

資料：愛知県「あいちの下水道」

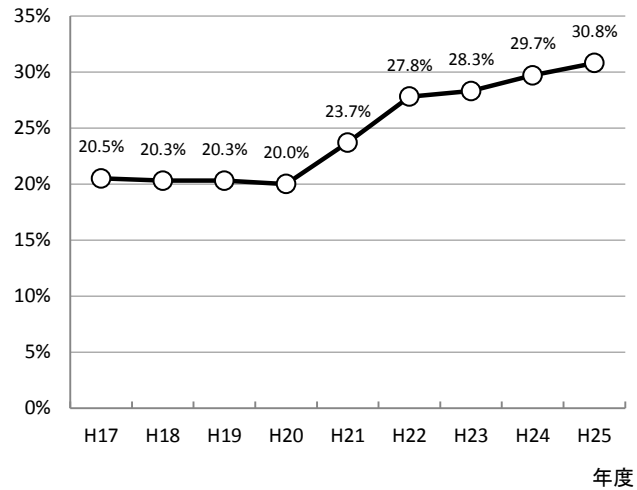


図 下水道普及率

資料：愛知県「あいちの下水道」

(4) 都市・快適環境

① 都市公園・緑地

- 都市公園は、天王川公園や東公園等の12箇所約29.8haが整備されています。市民1人当たり都市公園面積は4.6m²であり、愛知県平均(7.5m²/人)や国の整備目標値(10m²/人)を下回っています。
- 地域性緑地の状況をみると、風致地区が2地区16.1ha、生産緑地が260団地29ha、その他農振農用地区域が約711ha、河川区域が73.7haとなっており(平成19年度末)、都市公園等を含めて市域全体での緑地割合は約35%となっています。
- まちなか(市街地)の緑地割合は、約10%となっています。



表 都市公園一覧

公園名	種別	供用面積 (ha)	供用開始年月日	所在
天王川公園	総合公園	11.6	S57.5.1	宮川町1丁目地内外
東公園	運動公園	12.5	S57.5.1	新開町3丁目地内外
海西公園	近隣公園	2.1	H元.5.1	大縄町6.7丁目地内外
老松公園	街区公園	0.15	S57.6.1	老松町地内
金柳公園	〃	0.14	S57.6.1	金柳町字南脇地内
今市場公園	〃	0.18	S54.4.16	今市場町3丁目地内
大坪公園	〃	0.10	S57.6.1	大坪町字壺里地内
南本町公園	〃	0.36	S59.3.30	南本町4丁目地内
東洋町公園	〃	0.12	S61.5.23	東洋町2丁目地内
立込公園	〃	0.10	H2.4.1	立込町4丁目地内
市民の森	都市緑地	2.4	S59.3.30	新開町2丁目地内外
立込緑地	〃	0.06	H2.4.1	立込町3丁目地内

図 都市公園等の分布図

出典：津島市「津島市都市計画マスタープラン」

② 交通

- 登録自動車台数が継続して増加傾向にありますが、世帯当たりの保有台数は、平成 18 年度以降減少傾向にあります。それでも、世帯当たりの保有台数は、平成 24 年度時点で 1.45 台/世帯であり、愛知県平均（1.33 台/世帯）、全国平均（1.08 台/世帯）を上回っています。
- 平成 22 年度における通勤・通学時の交通手段は、自動車が 53.8%を占め、愛知県平均（47.9%）や全国平均（42.5%）より高く、自動車への依存度が高くなっています。また、平成 12 年度と比較すると、10 年間で自動車が「51.4%→53.8%」と増加した一方で、鉄道・電車やバスが「23.6%→21.3%」に減少しています。
- 鉄道の乗車人員数は平成 16 年度以降、ほぼ横ばいで推移しています。
- 公共交通手段としてのバスの利用促進のため、市は巡回バスを運行しています。利用者数は、年々増加傾向を示し、平成 25 年度は年間 55,341 人が利用しています。
- 電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の普及に必要な充電インフラ設備は、平成 25 年末時点で、津島市に急速充電設備 2 基、普通充電設備 5 基が整備されており、人口 1 万人当たりの充電設備数は県下でも上位にあります（「愛知県 EV・PHV タウン推進マスタープラン」「愛知県次世代自動車充電インフラ整備・配置計画」）。

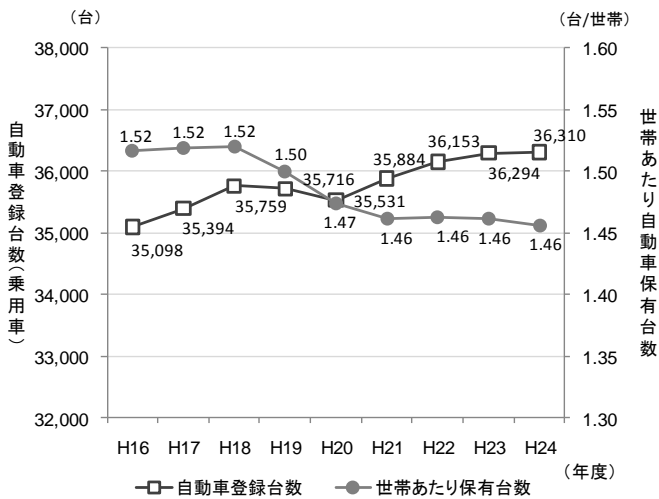


図 自動車登録台数と世帯あたり保有台数

資料：津島市「津島の統計」

表 世帯当たり保有台数の比較

	乗用車保有台数	世帯数	世帯あたり保有台数
津島市	36,310	24,987	1.45
愛知県	3,933,294	2,947,483	1.33
全国	58,729,343	54,171,475	1.08

資料：台数 津島市「津島の統計」

一般財団法人自動車検査登録情報協会

世帯数 総務省統計局「住民基本台帳に基づく

人口動態及び世帯数」

※乗用車は、普通乗用車、小型乗用車、軽自動車（乗用）の合計

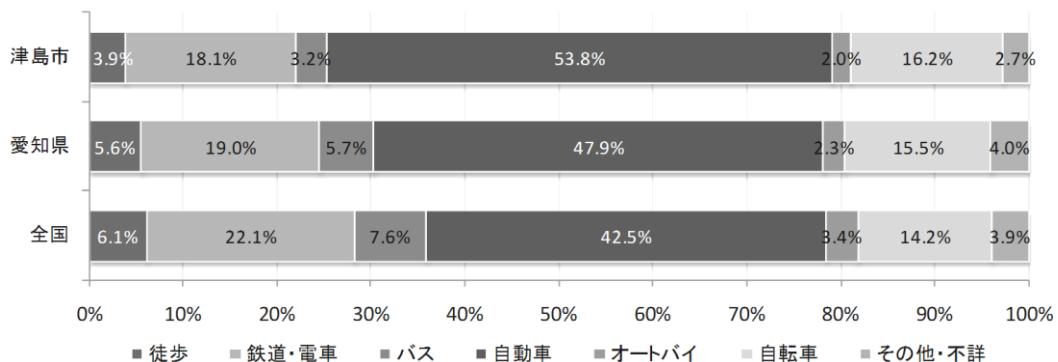


図 通勤・通学時の交通手段 (平成22年度)

資料：総務省統計局「平成22年国勢調査」

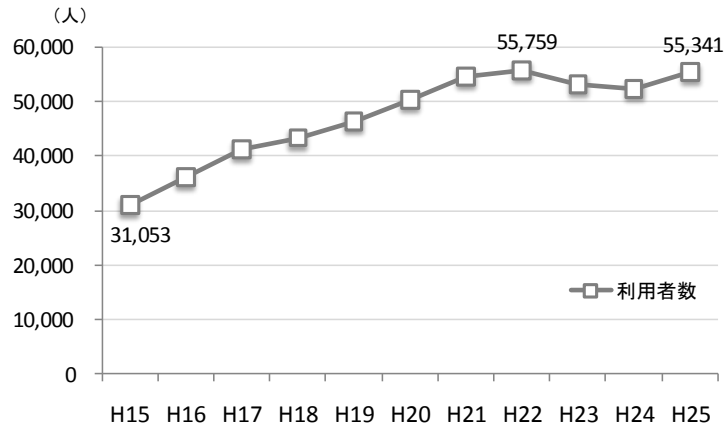


図 ふれあいバス（津島市巡回バス）利用者数

資料：津島市企画政策課

③ 歴史・文化

- 市内では、国指定文化財 7 件、県指定文化財 18 件、市指定文化財 125 件が指定され、国登録文化財 4 件が登録されています（平成 27 年 12 月現在）。津島神社等の社寺にかかわる文化財が多くみられ、地域別でみると駅西地域に多くの文化財があります。文化財の種類としては、無形民俗文化財や工芸、彫刻、建造物、絵画等が多くなっています。
- インターネット上の仮想博物館「津島市デジタル博物館」では、市内にある指定文化財や津島市にゆかりのある美術品等を常時公開しています。
- 平成 26 年に実施された「津島市市民意識調査」では、津島市の良い印象として「歴史的な街並みや伝統のある祭りが継承されており、歴史が感じられる」が 43.0%と最も多くの回答が挙げられました。



写真 左：津島神社本殿、右：尾張津島天王祭（朝祭）

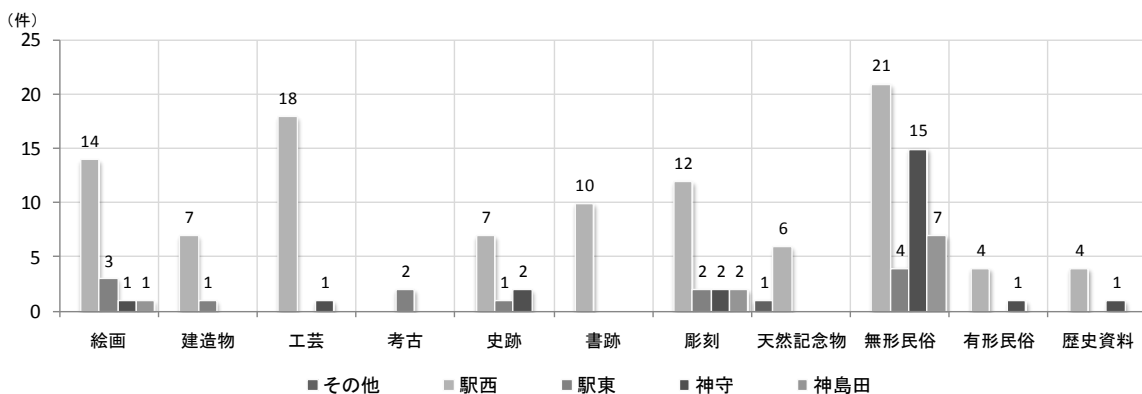


図 地区別の文化財件数

資料：津島市社会教育課

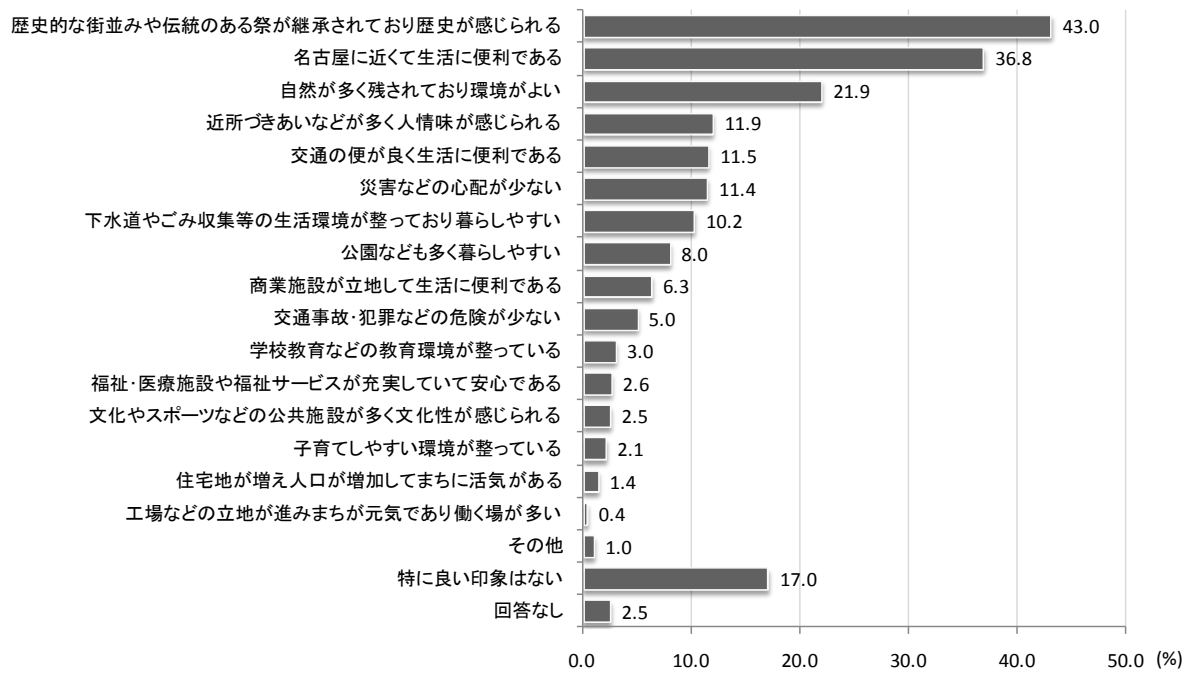


図 津島市の良い印象

資料：津島市「津島市市民意識調査結果報告書」

④ 指定避難所・避難場所

- 市内には、大地震や風水害等の災害が発生し、又は発生が予測される場合に開設される1次避難所として29箇所、1次避難所のみでは対応できない場合等に開設される2次避難所として11箇所が指定されています。
- 避難所に隣接するグラウンドなど、地震災害時等で建物内での安全が確保できない場合や避難所が開設されるまでの間に避難する避難場所が33箇所、地震災害等で大規模火災や延焼火災が発生した場合に、煙や炎、熱風等から身体の安全を確保するための広域避難場所が2箇所指定されています。
- 市内6箇所に防災倉庫を設置しており、防災テント、ワンタッチトイレ、担架ベット、救助工具箱セット等を備蓄しています。

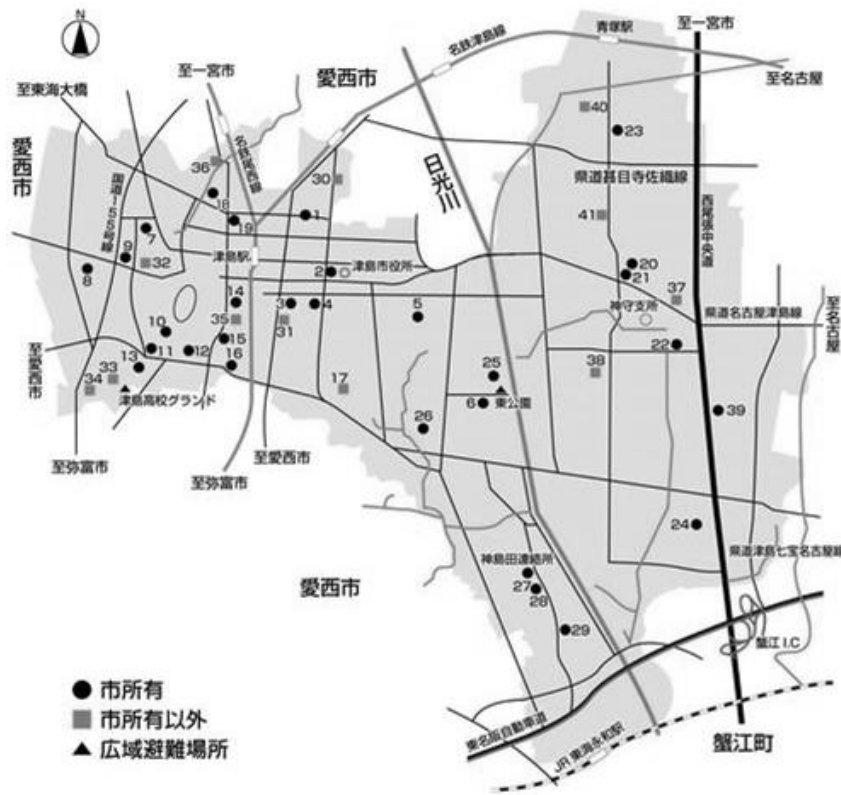


図 指定避難所・避難場所

出典：津島市 HP

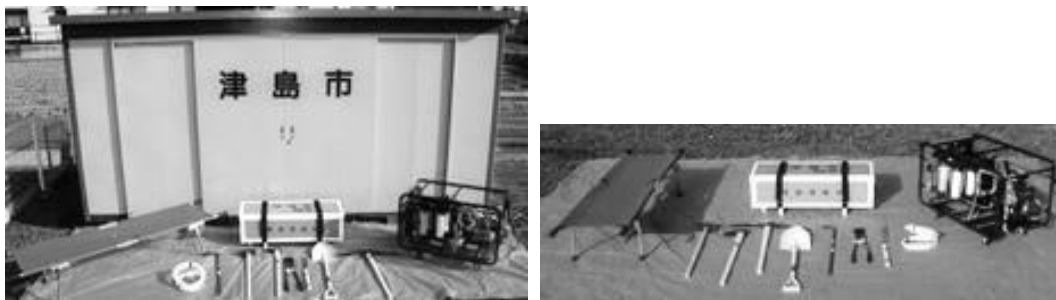


図 防災倉庫及び主な備蓄品

出典：津島市 HP

(5) 広域・地球環境

① 部門別エネルギー消費量

- 1990年以降のエネルギー消費量をみると、全体的には1990年の3,176TJから2008年の4,243TJへと増加傾向を示しており、その後は2012年の4,036TJへと微減しています。これは国全体の傾向とほぼ同じとなっています。
- 2012年の部門別のエネルギー消費量は、産業部門が815TJで1990年比26.4%の減少となっていますが、民生家庭部門が956TJ（1990年比：42.7%増）、民生業務部門が1,632TJ（1990年比：70.2%増）、運輸部門が633TJ（1990年比：44.2%増）となり、産業部門の減少分を上回る増加となっています。

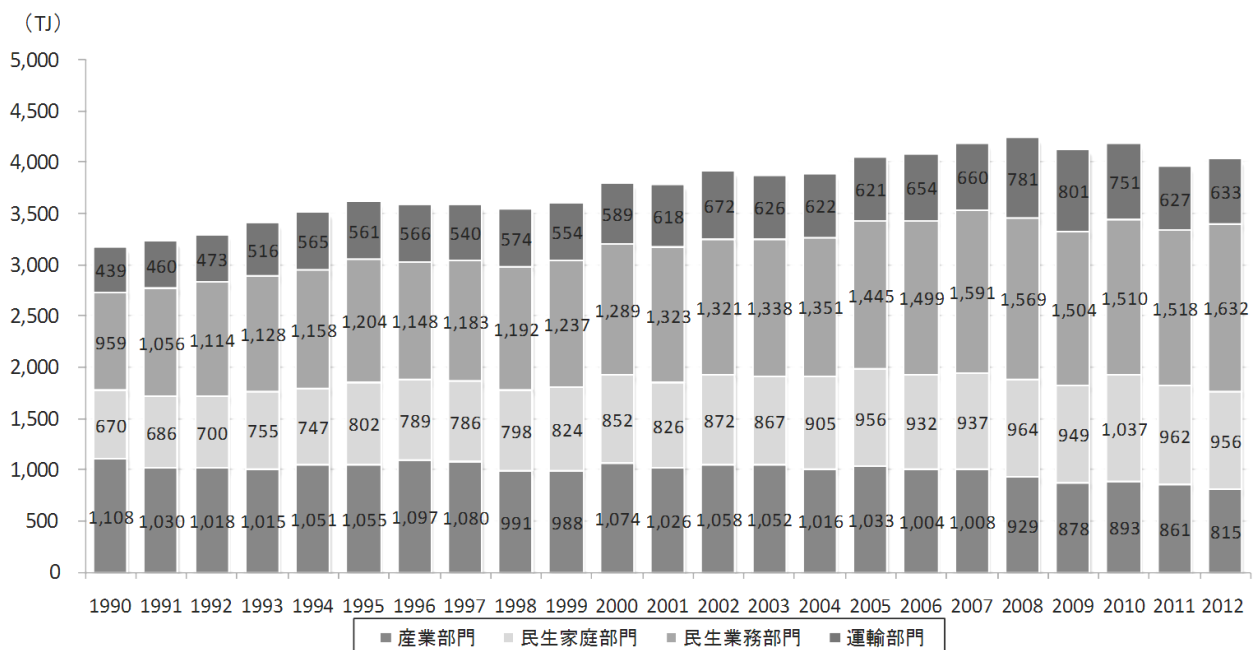


図 部門別エネルギー消費量（推計）

資料：経済産業省資源エネルギー庁「都道府県別エネルギー消費統計（愛知県）」

経済産業省資源エネルギー庁「市町村別エネルギー消費統計作成のためのガイドライン」

② 新エネルギー賦存量・可採量

- 新エネルギーの賦存量は、種々の制約要因（土地の傾斜、法規制、居住地からの距離等）を考慮せず、設置可能面積、平均風速、河川流量等から理論的に推計することのできるエネルギー資源量として推計しました。また、その可採量は、エネルギーの採取・利用に関する種々の制約要因による設置の可否を考慮したエネルギー資源量として推計を行いました。
- 可採量としては、太陽光発電（95,526GJ/y）、太陽熱利用（98,074GJ/y）、温度差熱利用（地中熱）（98,353GJ/y）が比較的高い結果となりました。なお、これらの各新エネルギーの可採量は、それぞれエネルギー消費量全体（2011年）の約2.4%～2.5%を占める値です。
- 名古屋地方気象台及び愛西観測所における2005年から2014年までの年間日照時間をみると、いずれの年も都道府県（全国）平均よりも日照時間は長く、太陽光発電の導入に適した地域であることが分かります。

表 新エネルギーの賦存量・可採量（推計）

新エネルギー	賦存量		可採量	
太陽光発電	11,708,470 [MWh/y]	42,150,492 [GJ/y]	26,535 [MWh/y]	95,526 [GJ/y]
風力発電	41,533 [MWh/y]	149,517 [GJ/y]	2 [MWh/y]	8 [GJ/y]
バイオマス発電	859,546 [MWh/y]	3,094,366 [GJ/y]	849 [MWh/y]	3,056 [GJ/y]
中小規模水力発電	— [MWh/y]	— [GJ/y]	— [MWh/y]	— [GJ]
地熱発電	427 [MWh/y]	1,536 [GJ/y]	21 [MWh/y]	77 [GJ/y]
太陽熱利用		42,150,492 [GJ/y]		98,074 [GJ/y]
温度差熱利用(地中熱)		1,130,040 [GJ/y]		98,353 [GJ/y]
温度差熱利用(河川水)		— [GJ/y]		— [GJ/y]
バイオマス熱利用		3,094,366 [GJ/y]		22,024 [GJ/y]
雪氷熱利用		0 [GJ/y]		0 [GJ/y]
バイオマス燃料製造		10,193 [GJ/y]		3,058 [GJ/y]

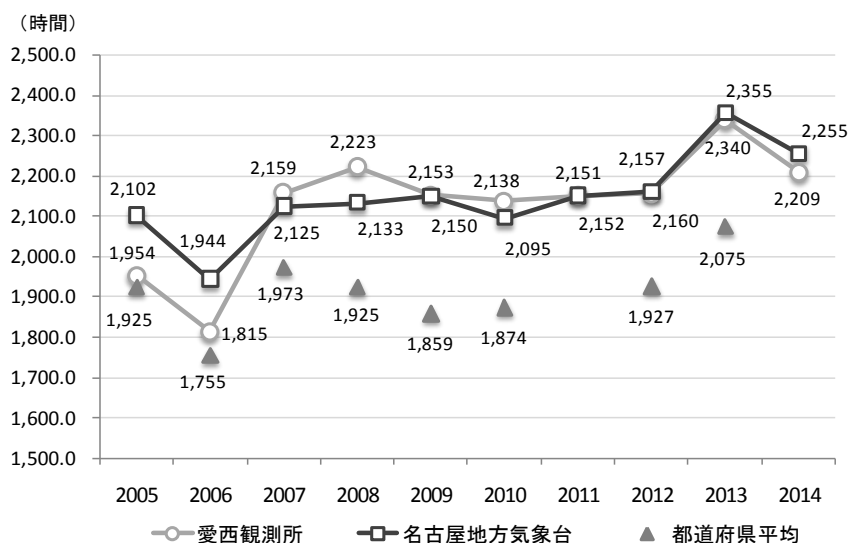


図 年間日照時間の比較

資料：気象庁「気象統計データ」等

○経済産業省資源エネルギー庁の固定価格買取制度による市町村別認定・導入量によると、平成 27 年 3 月末現在で、市内に設置された 1,323 基の太陽光発電設備により最大出力 11,010kW の発電能力を有しています。

○公共施設では、津島市役所をはじめとする 7 施設に太陽光発電設備が導入され、合計最大出力 75kW の発電能力を確保しています。

表 固定価格買取制度による市町村別認定導入量（愛知県津島市）

	10kW 未満	10kW 以上	合計
認定件数（件）	1,141	182	1,323
導入量（kW）	4,670	6,340	11,010

資料：経済産業省 資源エネルギー庁「情報公開用ウェブサイト」

表 公共施設における太陽光発電設備設置状況

	導入施設名称	所在地	設置年月	出力	用途
1	津島市役所	立込町 2 丁目 21 番地	H22.3	10.0kW	施設電力
2	津島市民病院	橘町 3 丁目 73 番地	H22.3	20.0kW	施設電力
3	西地域防災コミュニティセンター	下新田町 2 丁目 241 番地	H13.4	5.0kW	施設電力・売電
4	津島市立東小学校	立込町 2 丁目 21 番地	H22.3	10.0kW	施設電力・売電
5	津島市立蛭間小学校	蛭間町逆川東 848	H22.3	10.0kW	施設電力・売電
6	津島市神守学校給食共同調理場	菟原町字神守前 40 番地 1	H26.9	10.0kW	施設電力
7	津島市暁学校給食共同調理場	杵前町 5 丁目 7 番地 1	H26.9	10.0kW	施設電力

資料：津島市生活環境課

4

津島市の環境に関する市民意識

(1) 市民意識調査の概要

① 調査目的

○「津島市環境基本計画」の策定にあたり、市民及び事業者の環境に対する意識、環境保全の取組状況等を把握することを目的として、市民意識調査を実施しました。

② 調査対象・方法

○調査対象は、住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民2,000人、市内に事業所を有する300事業者、市内公立中学校2年生生徒246人、市内公立小学校5年生児童290人としました。

○調査方法は、18歳以上の市民及び市内事業者については郵送配布・郵送回収とし、市内公立中学校生徒及び小学校児童については各学校を通じて配布・回収を行いました。

③ 調査項目

【市民(18歳以上)、小中学生】

■津島市の現在の環境について

- ・【市民】現在の環境に対する満足度
- ・【小中学生】身の回りの環境について感じていること

■環境保全の取組みについて

- ・【市民】環境問題への関心度
- ・【市民】環境保全への意識
- ・【市民】現在実行している／継続・今後実行したい環境保全につながる取組み
- ・【小中学生】今している／大人になったらしようと思う取組み
- ・【市民】より積極的に環境保全につながる取組みを行うために必要なこと
- ・【市民】環境保全に関する市民活動の取組経験／取組意向

■行政による環境保全の取組みについて

- ・【市民】行政として重点的に取り組むべき環境分野

■将来の津島市の環境について

- ・【市民】20年後の望ましい環境の姿
- ・【小中学生】20年後の津島市の環境のイメージ
- ・【市民】望ましい環境の姿の実現に向けて行っていること／今後行いたいこと
- ・【小中学生】環境のイメージの実現に向けて今していること／大人になったらしようと思うこと
- ・【市民】50年後の環境の姿
- ・【小中学生】50年後の津島市の環境は今と比べてどうなっているか

■津島市の環境についての提案

- ・【市民】津島市の環境に対する提案
- ・【小中学生】環境を守るために大人にして欲しいこと

【事業者】

■環境保全の取組みについて

- ・【事業者】 環境問題に対する重要度意識
- ・【事業者】 環境保全に対する意識
- ・【事業者】 現在実行している／継続・今後実行したい環境保全につながる取組み
- ・【事業者】 環境保全に取り組むことで得られるメリット
- ・【事業者】 環境保全に取り組む上での課題
- ・【事業者】 今後取り組む予定の環境保全の取組み
- ・【事業者】 より積極的に環境保全につながる取組みを行うために必要なこと

■行政による環境保全の取組みについて

- ・【事業者】 行政として重点的に取り組むべき環境分野

■将来の津島市の環境について

- ・【事業者】 20年後の望ましい環境の姿
- ・【事業者】 望ましい環境の姿の実現に向けて行っていること／今後行いたいこと

■津島市の環境についての提案

- ・【事業者】 津島市の環境に対する提案

④ 回収結果

表 市民意識調査の回収結果

	配布数（通）	回収数（通）	回収率（%）
18歳以上の市民	2,000	1,089	54.5
市内事業者	300	133	44.3
市内公立中学校2年生生徒	246	222	90.2
市内公立小学校5年生児童	290	281	96.9
合計	2,836	1,725	60.8

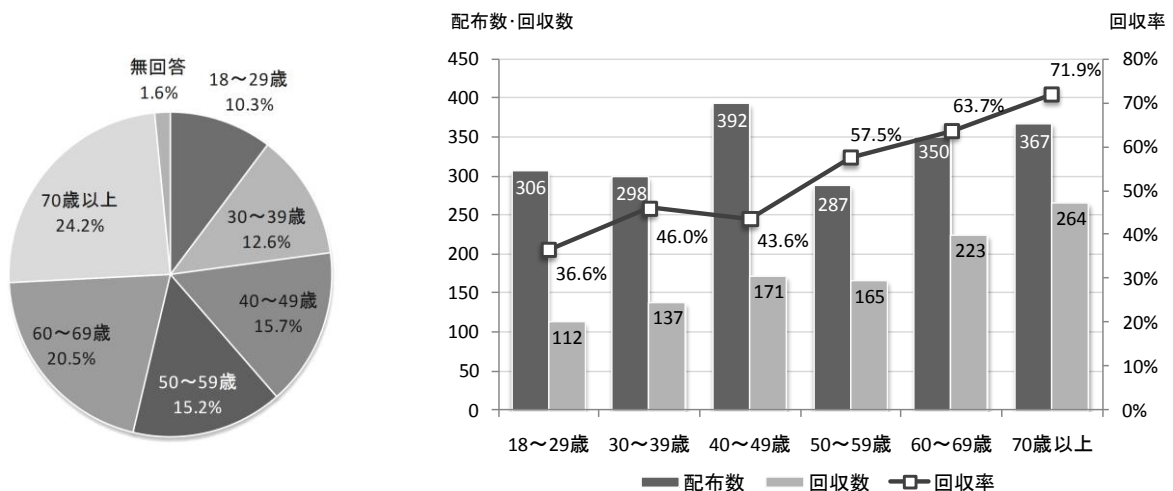


図 回答者の年齢及び年齢別の回収状況（市民）

(2) 市民(18歳以上)・小中学生の調査結果

① 津島市の現在の環境について

【市民】

(N=1,089)

あなたは、津島市の環境について、どの程度満足していますか。各項目について、あなたの考えに近いものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

- 「安全な食品を買うことができる」や「リサイクルが進んでいる」など、暮らしに関する項目の満足度が高く、市民も小中学生もほぼ同じ感覚でした。
- 市民では、「有害な化学物質への対策がとられている（45.1%）」、「地球温暖化への影響が少ない（33.5%）」、「環境についての情報が提供されている（32.2%）」の項目について、わからないという回答の割合が高くなっていました。

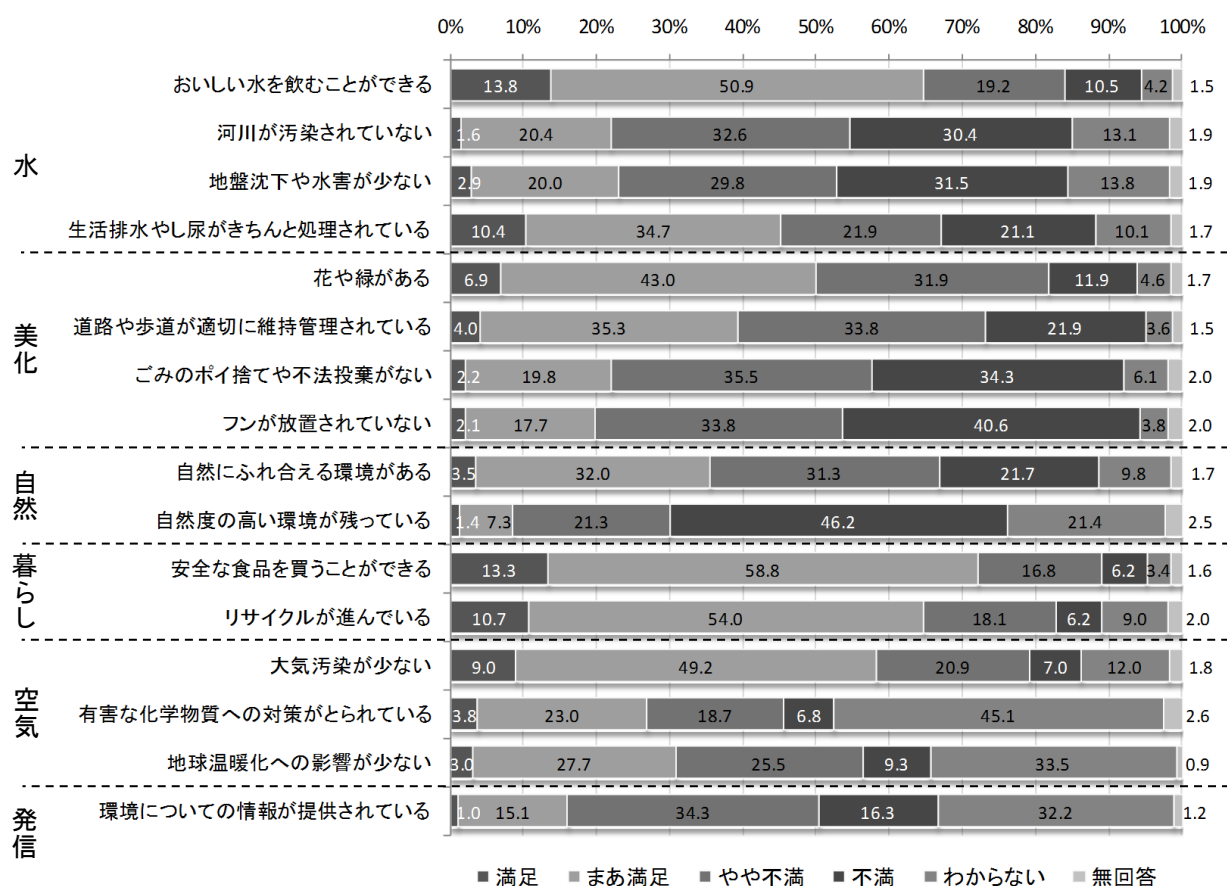


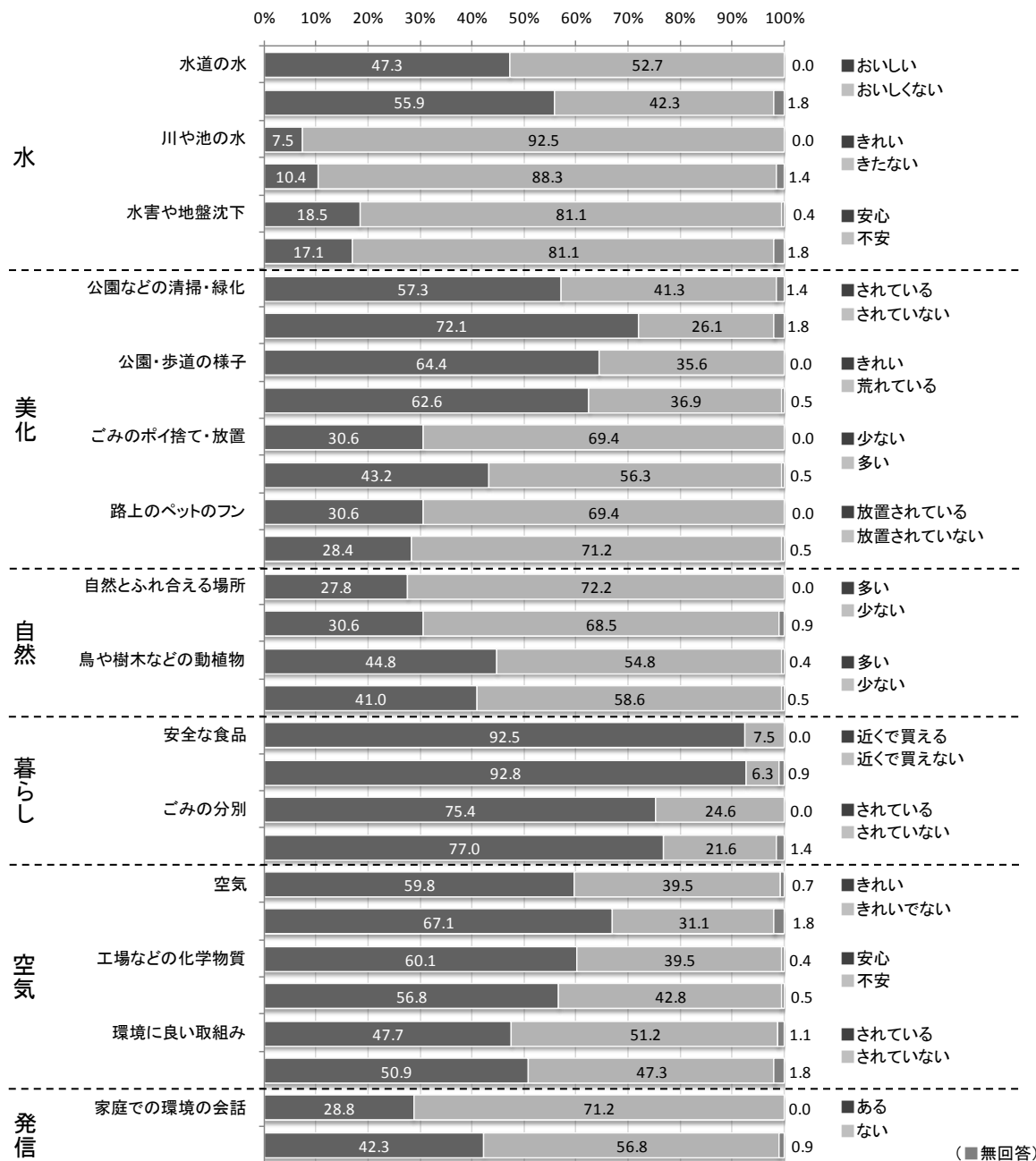
図 津島市の現在の環境の満足度

【小中学生】

(中学生 N=222、小学生 N=281)

あなたの身の回りの環境などについて、どのように感じていますか。次の質問について、それぞれ自分の考えに近いものの番号に○を付けてください。

- 小中学生は、河川や池の水が汚いと感じていたり、地盤沈下や水害について不安を感じているなど、水に関する不満の回答割合が高いのに対し、市民はごみのポイ捨てや不法投棄、フンの放置などに関する不満の回答割合が高くなっていました。
- 中学生と小学生では、「家庭での環境の会話がある」の回答割合に比較的大きな差がみられ、中学生では、小学生と比べて家庭での環境に関する会話が少なくなっています。



※各項目の上段が中学生、下段が小学生の回答

図 津島市の現在の環境の満足度

② 環境保全の取組みについて

【市民】

(N=1,089)

あなたは、環境問題について、どの程度関心がありますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

○市民の84.8%が環境問題に関心を持っていました。

○50歳以上では、86%以上が環境問題に関心を持っていました。その一方で、18～29歳では、関心がある割合が71.4%であり、22.3%が環境問題に関心がないと回答していました。

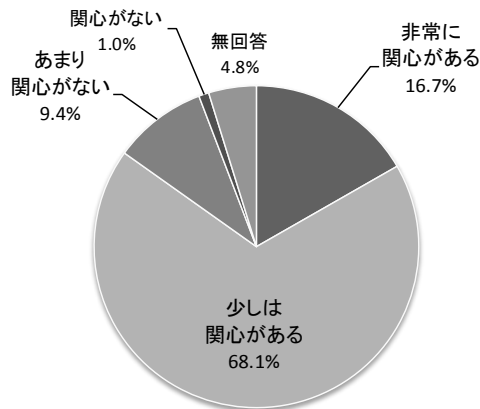


図 環境問題への関心

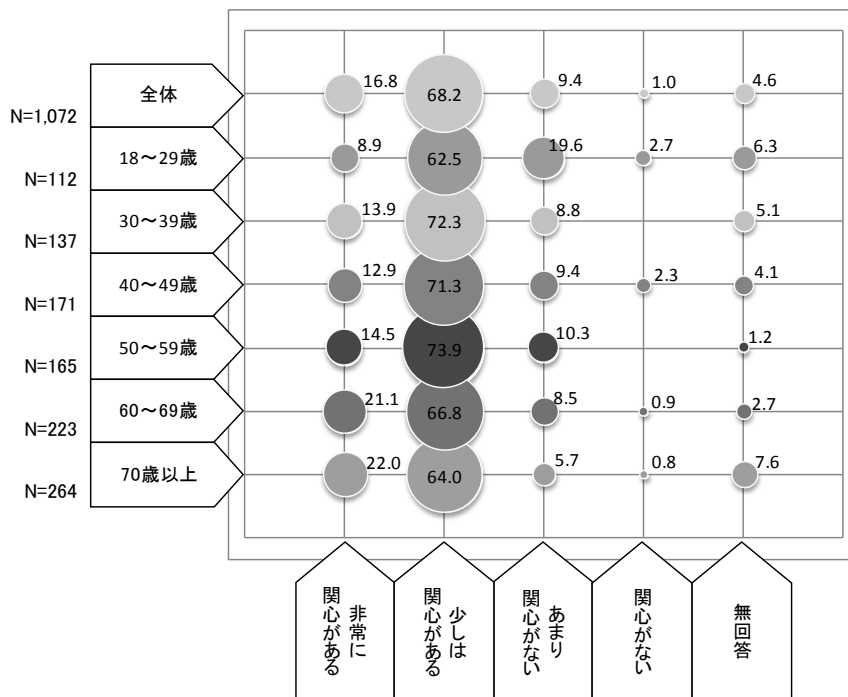


図 「回答者の年齢」とのクロス集計結果

【市民】

(N=1,089)

環境保全への意識に関する次の各項目について、あなたの考えに近いものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

- 多くの市民が将来の世代のために環境の保全・改善の行動を起こすことを必要と認めているものの、現在の生活や社会のレベルが下がることを望んでいませんでした。
- 環境の保全・改善のためなら生活が多少不便になることを許容できるとの回答は、自らが環境の保全・改善に努めるべきと考える人にはありましたが、そう思わない人では、ほぼありませんでした。
- 生活の不便さや物価の上昇については、許容する人と許容しない人が半々でしたが、行政が税を投入して対策を講ずることには、抵抗感が強くなっていました。

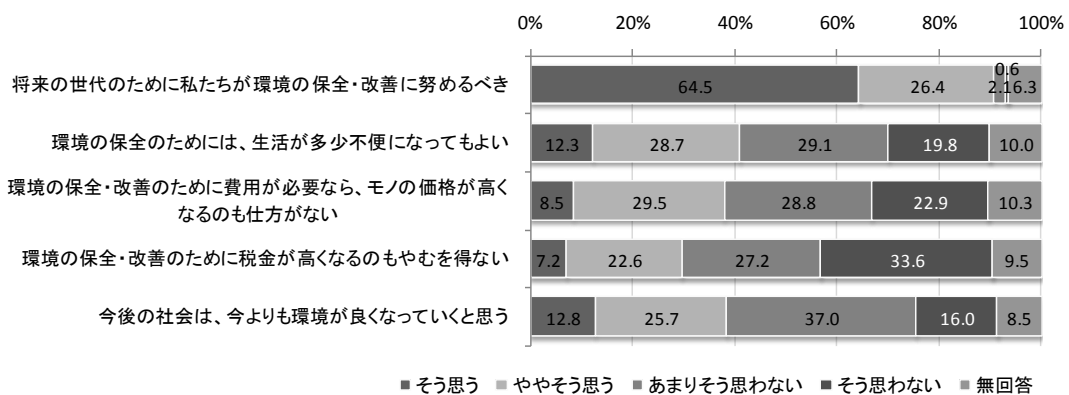


図 環境保全への意識

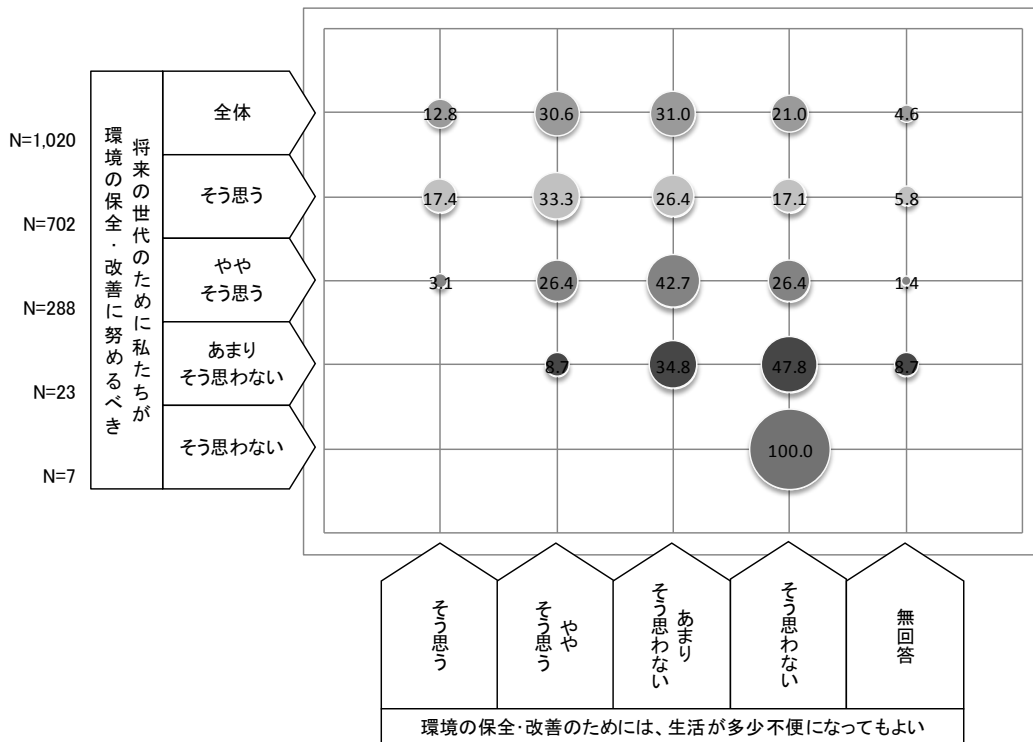


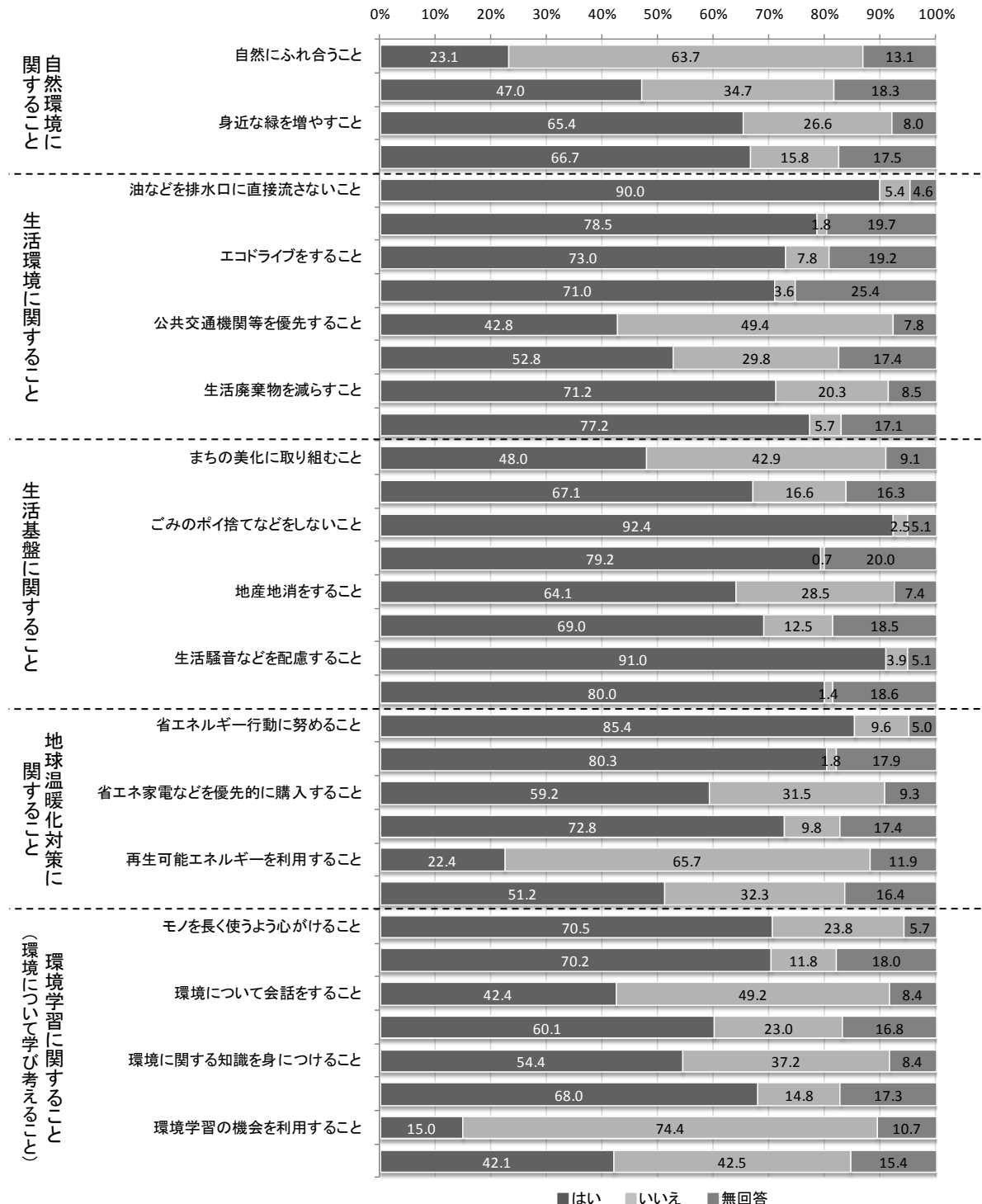
図 各回答のクロス集計結果

【市民】

(N=1,089)

あなたは、環境保全につながる取組みを、①現在実行していますか、②継続して又は今後実行していきますか。各項目について①及び②ごとに、それぞれ該当するものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

○現在実行している環境保全につながる取組みは、日常生活に根付いた身近にできるものが多くなっています。環境学習の機会を利用すること（15.0%）、再生可能エネルギーを利用すること（22.4%）、自然にふれ合うこと（23.1%）については、現状ではあまり取り組まれていません。



※各項目の上段が①現在実行しているか、下段が②継続又は今後実行していくかの回答

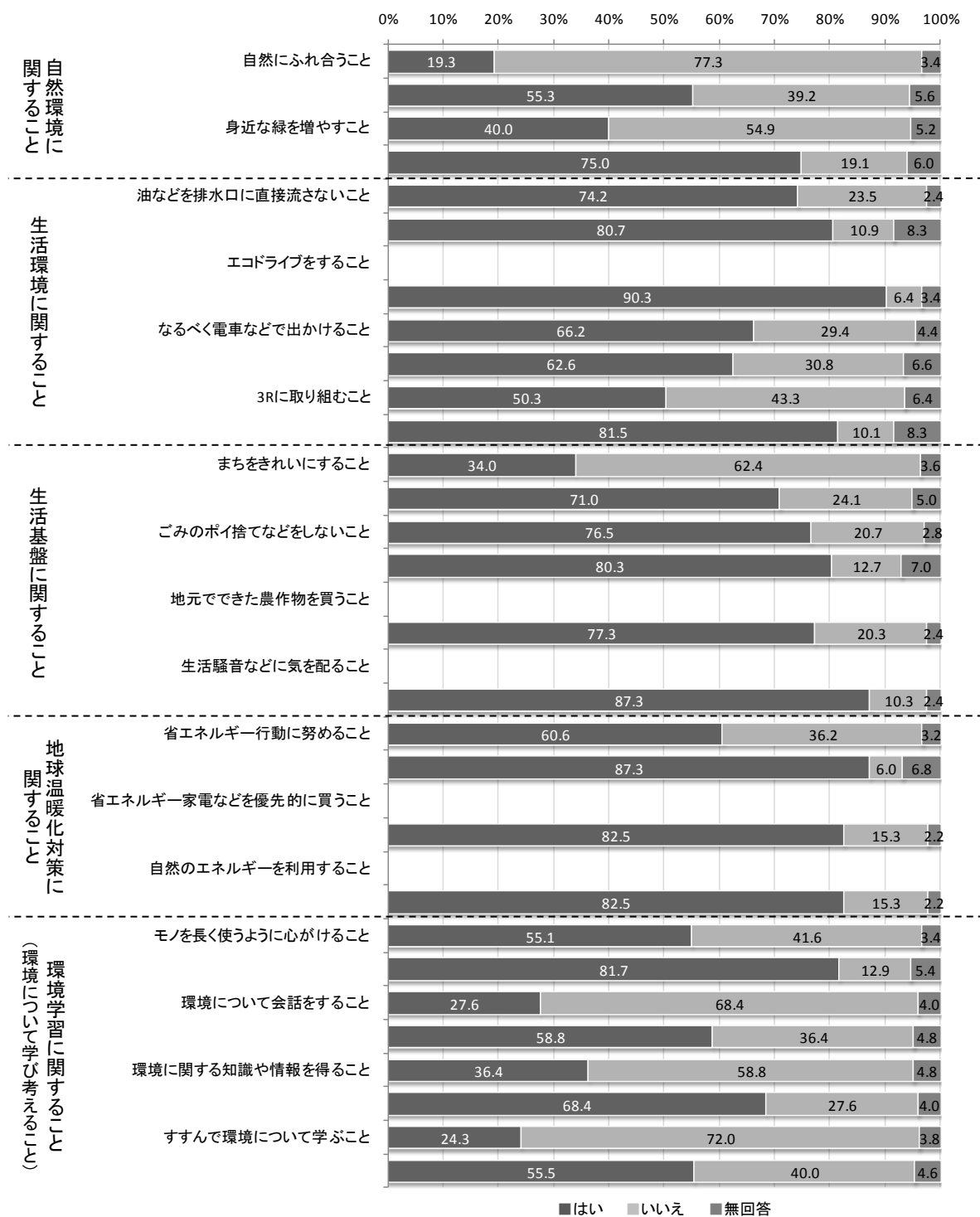
図 環境保全につながる取組み

【小中学生】

(中学生 N=222、小学生 N=281)

あなたは、次の取組みを、①今していますか、②大人になったらしようと思いますか。①と②の項目ごとに、それぞれあてはまるものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

○小中学生では、環境について、会話をする、すすんで学ぶ、知識や情報を得るなど環境学習に関することについて、現状ではあまり取り組まれていません。エコドライブなど現在していないことについて、将来への関心は高くなっています。



※中学生と小学生の回答の合計値

※各項目の上段が①今しているか、下段が②大人になったらしようと思うかの回答

図 環境保全につながる取組み

【市民】

(N=1,089)

あなたは、環境保全につながる取組みに、より積極的に取り組んでいくため、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまるものを3つまで選んで、番号に○を付けてください。

- 取組みの社会的意義や責任の実感、励みがあることは、積極的な取組みに必須と考えられていません。
- 環境問題への関心度別にみると、関心がある層では、取組みの効果が目に見えること、楽しみながら、1人ではなくみんなで取り組むことが必要としています。関心がない層では、直接的なメリット、支援の有無が重視される傾向にあります。
- 年齢別にみると、若い年齢層ほど直接的なメリットや取組みに対する支援を求める割合が高くなっていました。また、年齢層が上がるにつれて、1人ではなくみんなで取り組むことを求める割合が高くなっていました。

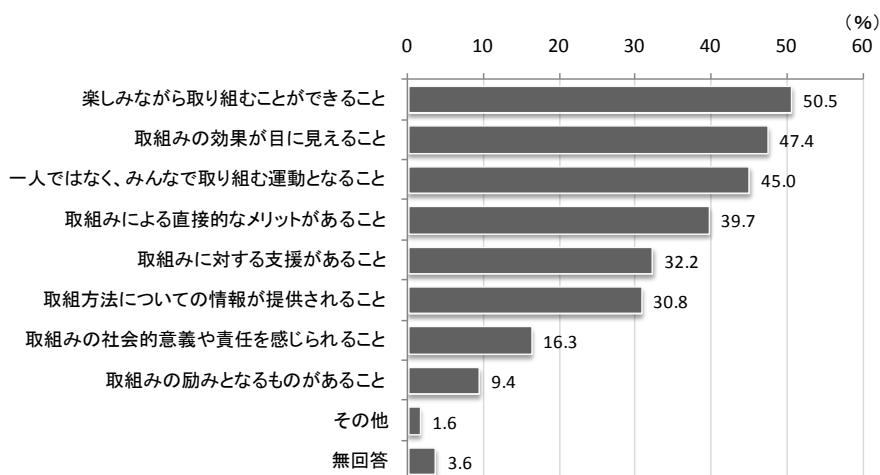


図 環境保全につながる取組みにより積極的に取り組むために必要なこと

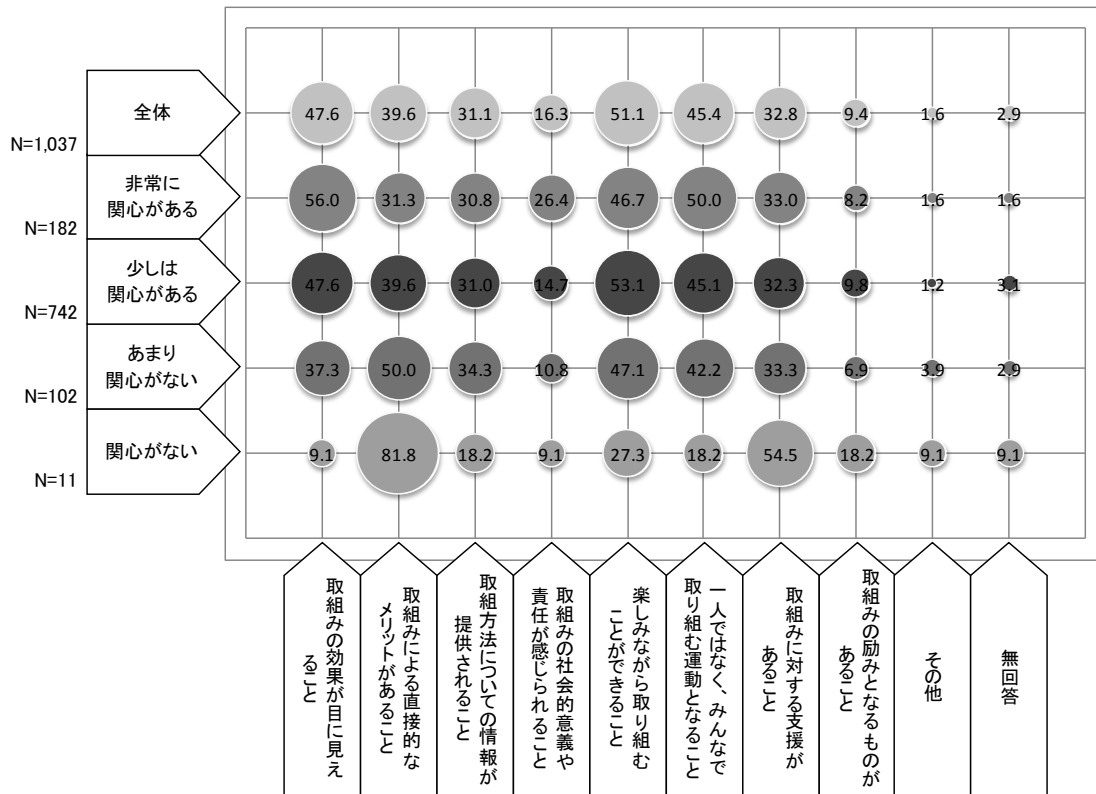


図 「環境問題への関心度」とのクロス集計結果

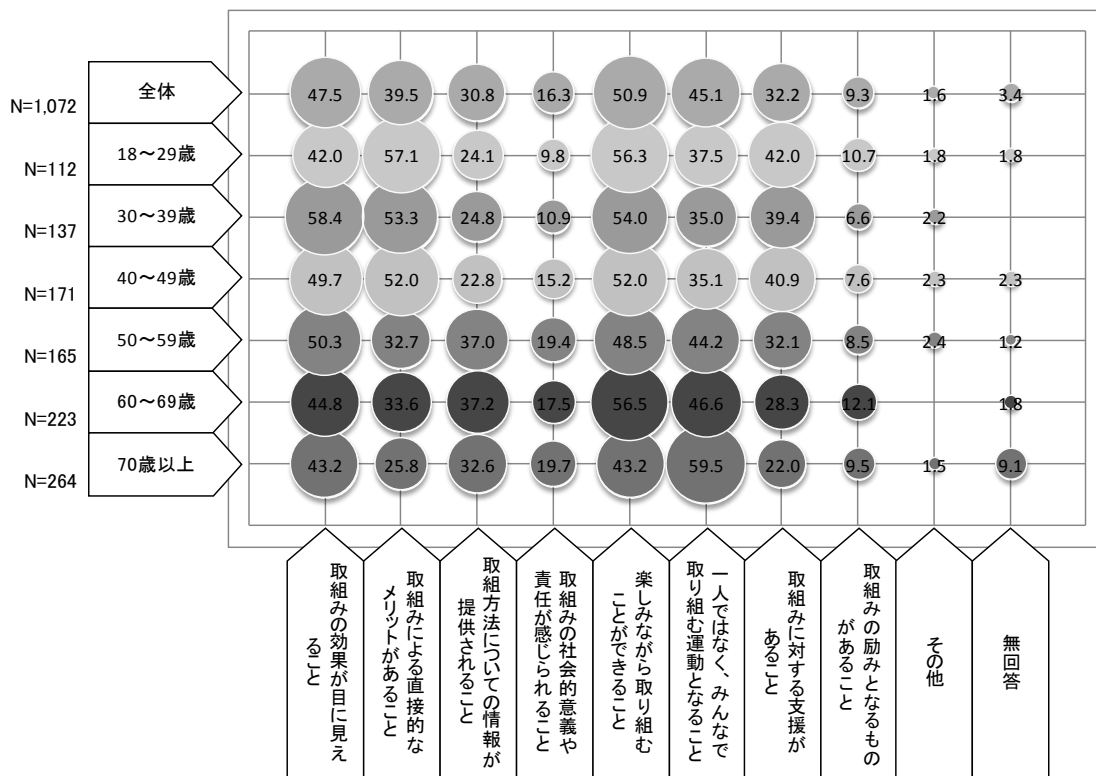


図 「回答者の年齢」とのクロス集計結果

【市民】

(N=1,089)

あなたは、環境保護団体（NPO・NGO）や市民団体などによる組織的な市民活動として、環境保全に関する活動に取り組んだことがありますか。また、今後取り組んでいきたいと思いませんか。あてはまる項目すべての番号に○を付けてください。

- これまでに取り組んだことのある人の活動分野では、「リサイクル・廃棄物」が圧倒的に多くなっていました。
- 今後については、「リサイクル・廃棄物」をはじめ、「自然保護」「消費・生活」「森林の保全・地域の緑化」「地球温暖化対策」など、関心のある分野が多岐にわたりました。
- 自然保護の分野については、今後の取組意向が大幅に伸びており、組織的な活動としての意向が強くなっていました。また、森林保全・地域緑化、水環境や大気環境の保全、地球温暖化対策についても取組みの意向が伸びていました。

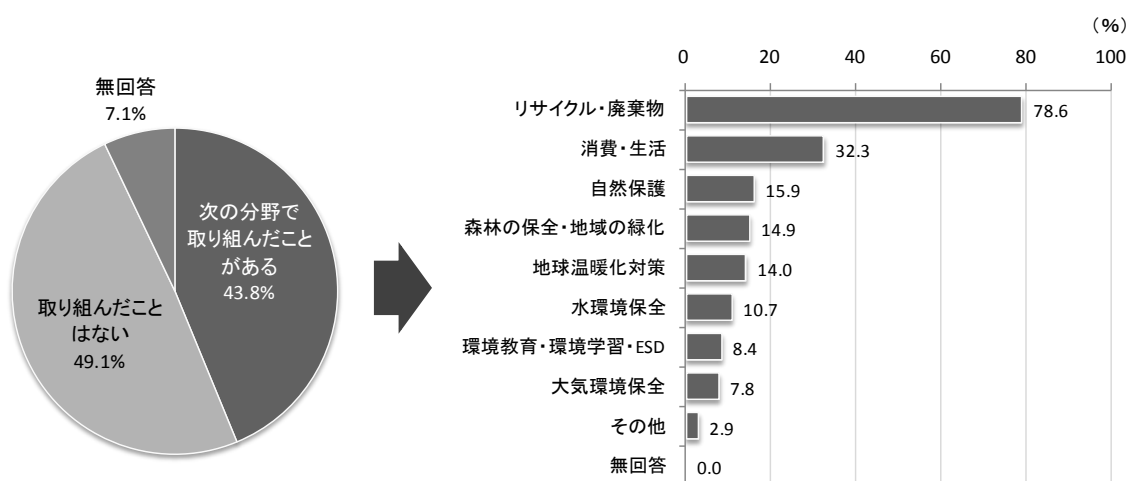


図 環境保全に関する市民活動の取組状況及び取り組んだことのある分野 (N=477)

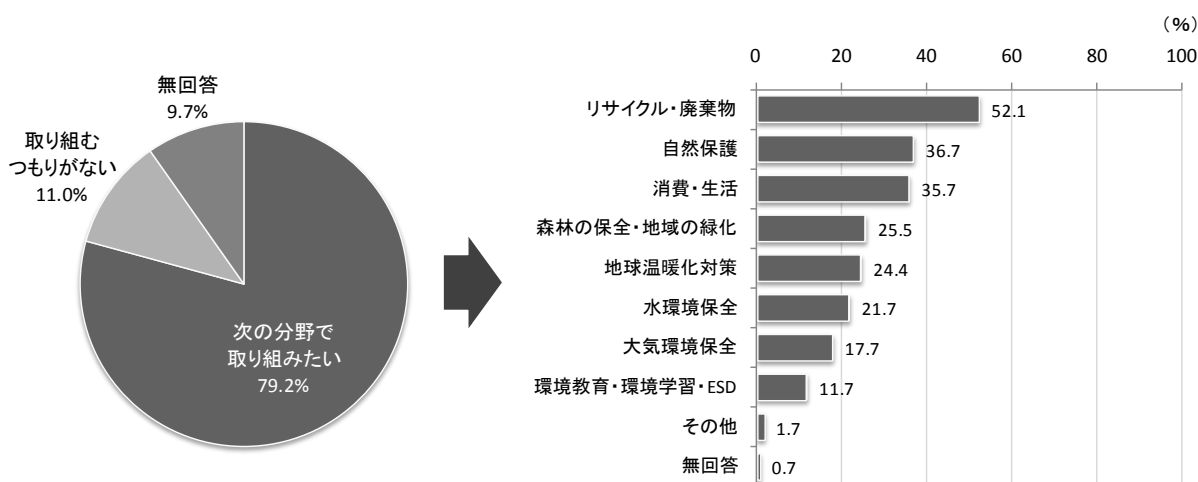


図 環境保全に関する市民活動の取組意向及び関心のある分野 (N=863)

【市民】

(N=1,089)

今後の意向として、環境保護団体（NPO・NGO）や市民団体などによる組織的な市民活動として、環境保全に関する活動に「取り組むつもりがない」と回答された方は、その理由をお書きください。

■主な回答（括弧内は回答件数）

- 忙しいなど、時間的な余裕がないため（35）
- 高齢や健康上の理由のため（17）
- 組織や団体の取り組みではなく、個人で行うものと捉えているため（16）
- よく分からないため（13）
- 団体に対してあまり信用できないため（7）
- 興味がないため（5）
- 次世代に任せたいため（2）

③ 行政による環境保全の取組みについて

【市民】

(N=1,089)

あなたは、これからの津島市の環境のために、行政として、どのような分野について重点的に取り組んでいくべきだと思いますか。次の各項目について、あなたの考え方に近いものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

- 生活環境に関することについて、重点的に取り組んでいくべきという意見が多くありますが、これまで行政が重点的に取り組んできた分野でもあります。
- 環境学習に関することについては、わからないとの回答がいずれも3割前後を占めています。
- 自然環境の保全については、74.2%が重点的に取り組むべきと考えていますが、地球温暖化対策や生物多様性の保全といった新しい課題に対しては、あまり高くなっていません。

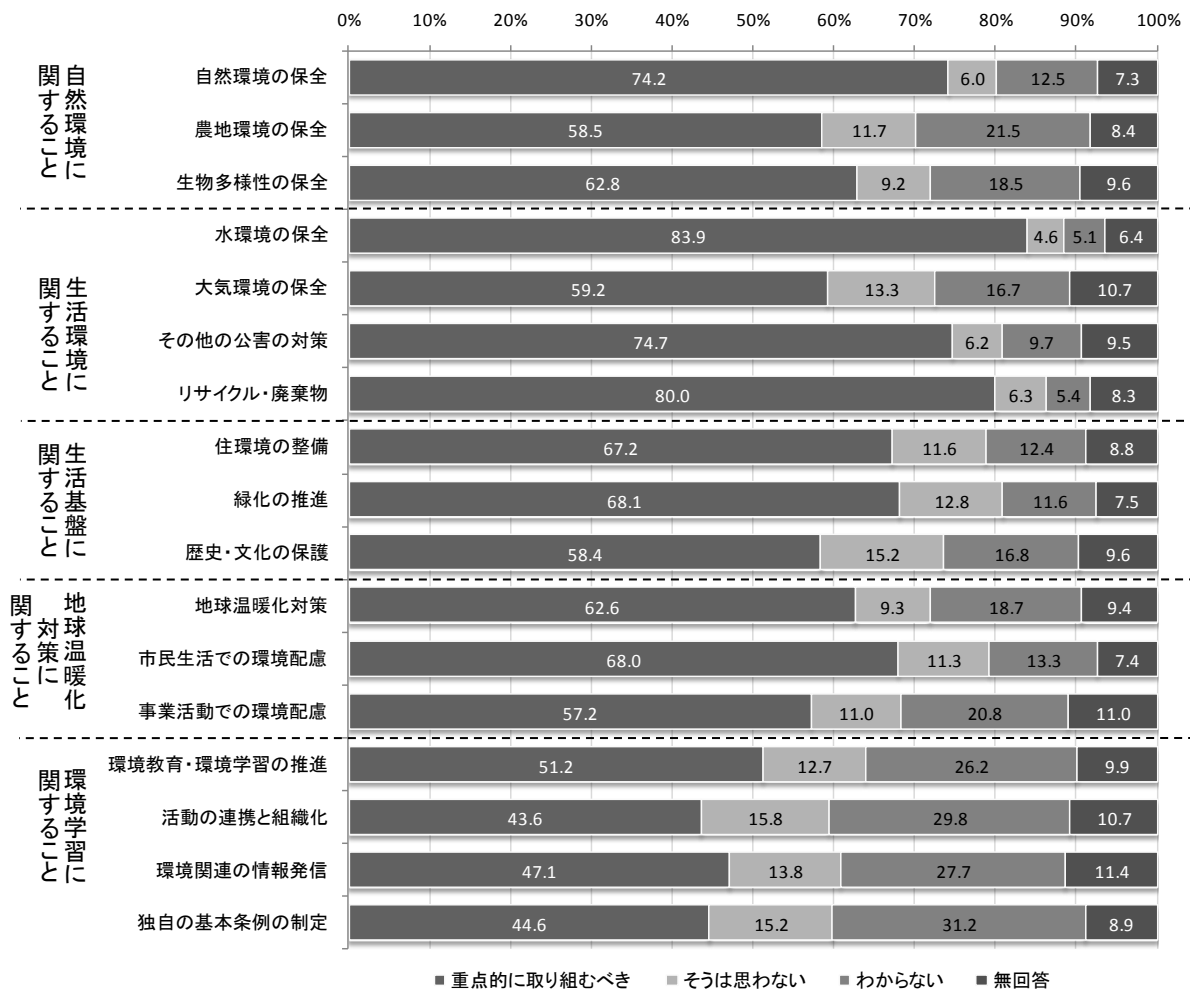


図 行政が重点的に取り組むべき分野

④ 将来の津島市の環境について

【市民】

(N=1,089)

あなたが考える 20 年後の津島市において、こうあって欲しいと望む環境の姿として、あてはまるものを 3 つまで選んで、番号に○を付けてください。

- 「防災・減災の取組みが進んで災害に強い」については、一般市民において飛びぬけて高い割合を示しており、全年齢層を通じて、災害に強いまちという将来像を描いています。
- 水環境・大気環境が良好で、まちににぎわいがあることが望まれています。

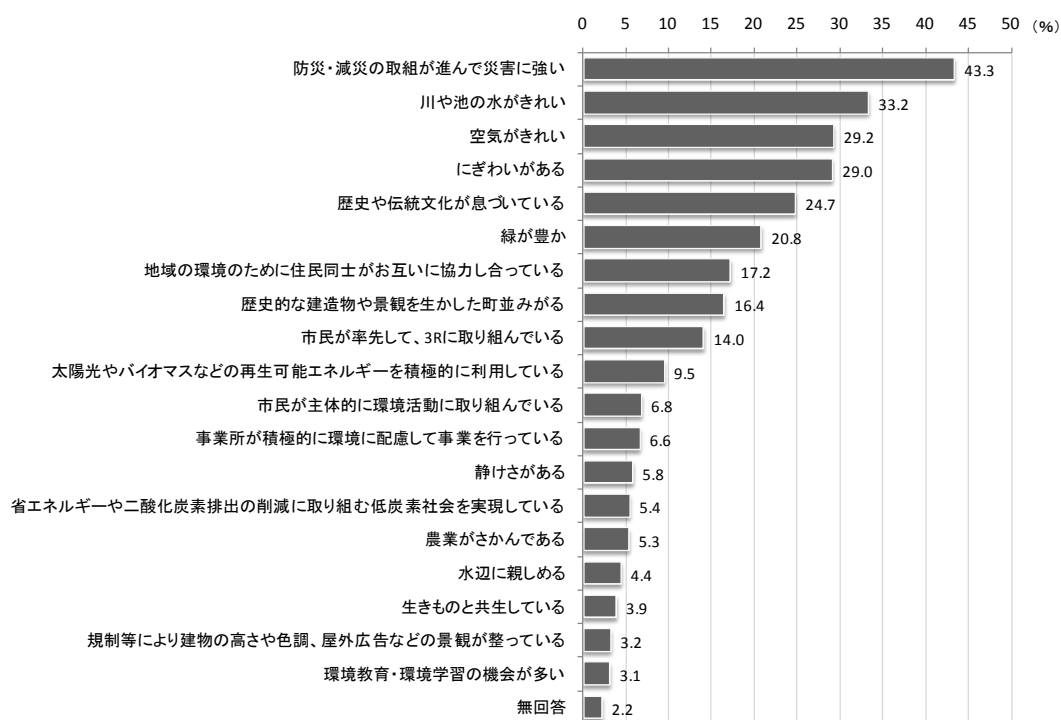


図 20 年後の津島市の望ましい環境の姿

表 「回答者の年齢」のクロス集計結果（各年齢層の上位3項目）

年 齢	1	2	3
全 体	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（43.5%）	川や池の水がきれい（33.3%）	空気がきれい（29.2%）
18～29 歳	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（42.9%）	にぎわいがある（40.2%）	川や池の水がきれい（38.4%）
30～39 歳	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（38.7%） 川や池の水がきれい（38.7%）		空気がきれい（38.0%）
40～49 歳	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（45.0%）	歴史や伝統文化が息づいている（31.0%）	空気がきれい（29.2%） にぎわいがある（29.2%）
50～59 歳	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（50.9%）	川や池の水がきれい（33.3%）	歴史や伝統文化が息づいている（27.9%）
60～69 歳	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（50.2%）	にぎわいがある（35.4%）	川や池の水がきれい（35.0%）
70 歳以上	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（34.8%）	川や池の水がきれい（30.3%）	空気がきれい（29.9%）

表 「回答者の居住地区」のクロス集計結果（各居住地区の上位3項目）

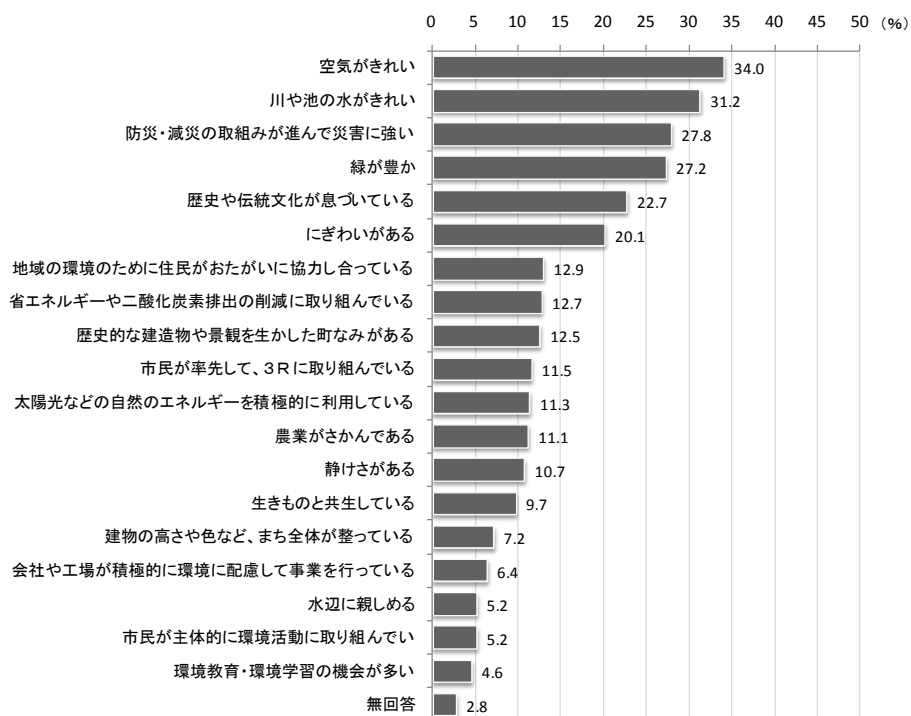
小学校区	1	2	3
全 体	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（43.7%）	川や池の水がきれい（33.3%）	にぎわいがある（29.3%）
東 小	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（39.4%） にぎわいがある（39.4%）		川や池の水がきれい（30.3%）
西 小	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（42.6%）	川や池の水がきれい（33.0%）	歴史や伝統文化が息づいている（32.4%）
南 小	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（44.0%）	空気がきれい（30.8%）	歴史や伝統文化が息づいている（30.2%）
北 小	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（39.8%） 歴史や伝統文化が息づいている（39.8%）		にぎわいがある（27.7%）
神 守 小	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（45.1%）	川や池の水がきれい（40.1%）	空気がきれい（35.8%）
蛭 間 小	川や池の水がきれい（42.9%）	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（40.8%）	にぎわいがある（35.7%）
高 台 寺 小	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（59.2%）	川や池の水がきれい（33.8%）	空気がきれい（31.0%）
神 島 田 小	防災・減災の取組みが進んで災害に強い（46.9%）	川や池の水がきれい（31.9%）	空気がきれい（28.3%）

【小中学生】

(中学生 N=222、小学生 N=281)

あなたが期待する「20年後の津島市の環境」のイメージに近いものを3つまで選んで、番号に○を付けてください。

○小中学生の結果を市民と比較すると、「緑が豊か」という将来イメージの回答割合が高くなっています。



※中学生と小学生の回答の合計値

図 20年後の津島市の望ましい環境の姿

【市民】

(N=1,089)

20年後の津島市の環境の姿の実現に向けて、あなたが日頃行っていることや今後行っていきたいことについて、自由に書いて下さい。

■主な回答（括弧内は回答件数）

- ごみを捨てない、ごみ拾い、分別、リサイクル、3Rの推進（138）
- 歴史文化の維持活用、町並み景観の保全、祭りへの参加（65）
- 緑化の推進、自然を守る（58）
- 災害への備え、防災・減災の取組（43）
- まちを活性化させる、まちの雰囲気をよくする（27）
- 生活排水の改善、水質を良くし、川や池、水路を汚さないこと（23）
- 再生可能エネルギーの活用（23）
- 公共交通機関の利用、エコカーへの切り替え、エコドライブ、車の運転を控える（21）
- 助け合うこと、一緒に活動すること（13）
- 農業の実践（10）
- 大気汚染、騒音、悪臭などの公害苦情（9）
- 省エネルギーの実行など（8）
- 公共施設、公園などの充実（7）
- 環境学習、環境教育（4）

【小中学生】

(中学生 N=222、小学生 N=281)

「20年後の津島市の環境」のために、「今していること」や「大人になったらしようと思うこと」を自由に書いてください。

■主な回答（中学生）（括弧内は回答件数）

- ごみを捨てない、ごみ拾い、分別、リサイクル、3Rの推進（95）
- 歴史文化の保全・継承、祭りへの参加（27）
- 緑化の推進、自然を豊かにする（27）
- 防災対策、安全対策（25）
- 省エネルギー対策、エコカーの使用、CO₂の削減（24）
- 騒音、大気汚染などを発生させないこと（11）
- 自然エネルギーの活用（10）
- まちの活性化（9）
- あいさつをする、コミュニケーションをとる（7）
- 一次産業の仕事をする（2）
- 環境学習（1）

■主な回答（小学生）

- 掃除、ごみを捨てない、ごみを減らす、3Rの推進（51）
- 農業の実践、緑化の推進（33）
- 川や水をきれいにする（17）
- 歴史文化の保全（9）
- まちの雰囲気を良くする（9）
- 防災対策を進める（8）
- 生き物を大切にする（7）
- 空気を汚さない（4）
- ハイブリッドカーや空気を汚さない取り組みをする（1）
- 太陽光パネルをつける（1）
- 車を使わずに自転車や公共交通機関を使う（1）
- 植物を植えて緑を増やす（1）

【市民】

(N=1,089)

あなたが考える 50 年後の津島市において、こうなっているのではないかと思う環境の姿について、自由に書いてください。

■主な回答（括弧内は回答件数）

- 少子高齢化が進んでいる（49）
- 良好な自然環境、緑が豊か（40）
- 農地が減少し、宅地化が進行している（36）
- 歴史文化があり、祭りが継承されている（33）
- 防災のまち、災害が懸念されるまち（30）
- 道路や歩道等が整備されたまち（19）
- 特に変化なし（19）
- 住みやすいまち（12）
- 再生可能エネルギーの活用、エコカーなどの使用が進んでいる（11）
- ゴミのないまち、リサイクル、3R の進むまち（10）
- 財政事情の問題、税金の負担が大きい（10）
- 公園緑地や施設が整備されている（7）
- 下水道等が整備されている（7）
- 企業が誘致されている（4）
- 地下鉄ができています（4）
- あまり良くない環境（3）
- 緑が豊かで公園が増え、子どもや市民が憩える環境が増えている（3）
- 安心できるまち（2）
- 歴史文化と自然豊かな町であること（1）
- 地産地消が根付いたまち（1）
- 自然とのバランスがとれている（1）

【小中学生】

(中学生 N=222、小学生 N=281)

あなたが予想する 50 年後の津島市の環境は、今と比べてどうなっているか、あなたがどのような生活をしているかについて、自由に書いてください。

■主な回答（中学生）（括弧内は回答件数）

- 緑が増えている、自然が豊かになっている (31)
- 環境が悪化している (19)
- 良い環境になっている (19)
- ごみが少なくなっている、リサイクル、3Rを進めている (17)
- 状況は変わらない (16)
- 人口が減少している (15)
- 空気がきれいになっている (14)
- 建築物が増えている (13)
- 緑が減り、自然がなくなっている (12)
- ごみが増えている (10)
- 省エネルギーを進めている、再生可能エネルギーの活用など (9)
- 川や水がきれいになっている (9)
- 空気がきたなくなっている (8)
- 便利になっている (8)
- 道路などの交通環境が整備されている (6)
- よい生活、豊かな生活をしている (6)
- 活気のあるまち (5)

■主な回答（小学生）（括弧内は回答件数）

- 緑化されたり、自然環境が良くなっている (62)
- 良い環境になっている (30)
- 自然が悪くなっている、悪い環境になっている (17)
- エコな生活、CO₂排出が減っている (8)
- 変わらない (8)
- 建築物が増えている (7)
- 便利になっている (6)
- 道路が整備されている (3)
- 安全なまち (3)
- 平和になっている (3)
- 災害に強くなっている (2)
- 祭り (2)
- 災害に弱い (1)

⑤ 津島市の環境に対する提案

【市民】

(N=1,089)

津島市の環境について、ご提案がありましたら、自由に書いてください。

■主な回答（括弧内は回答件数）

- 道路や歩道の整備、交通環境の改善（47）
- 公園、緑地の整備（42）
- 水環境や水質の改善（34）
- ごみの分別、リサイクル、美化、3Rを進める（33）
- 災害対策、防災・減災の取組（15）
- まちの活性化、良い雰囲気づくり（10）
- 農地、農業の維持活用（8）
- 企業の誘致（6）
- 再生可能エネルギーの活用、省エネルギーなど（4）
- 環境情報の活用、普及（3）

【小中学生】

（中学生 N=222、小学生 N=281）

環境を守るために、今、大人にして欲しいと思うことを書いてください。

■主な回答（中学生）（括弧内は回答件数）

- ごみのポイ捨てをやめる、掃除、分別、リサイクル、3Rの推進（138）
- 自然を大切にする、自然を豊かにする（19）
- 空気をきれいにする（9）
- CO₂の排出を減らす（6）
- 防災対策（5）
- 資源を大切にする（5）
- 犬のフンを片づける（4）
- 再生可能エネルギーの活用（3）

■主な回答（小学生）（括弧内は回答件数）

- ごみのポイ捨てをやめる（37）
- タバコのぼい捨てをやめる（18）
- 自然や緑を守る、増やす（21）
- ゴミ拾い・掃除（20）
- ゴミの分別（9）
- 省エネルギーの実践、温暖化対策（8）
- 動物のフンの始末をきちんとする（8）
- ゴミの減量、リサイクル（5）
- 水質改善（4）

(3) 事業者の調査結果

① 環境保全の取組みについて

【事業者】

(N=133)

貴事業所の事業活動において、環境問題をどの程度重要と考えていますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

○82.7%の事業者が事業活動において環境問題を重要視していることがわかります。

○従業員数が51人以上の事業所では、事業所全てが重要であると回答しているのに対し、50人以下の事業所では重要でないという回答もあり、事業所の規模によって環境問題への重要度意識が異なることがわかります。

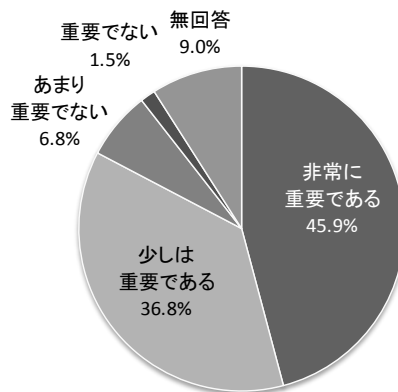


図 事業活動における環境問題の重要度

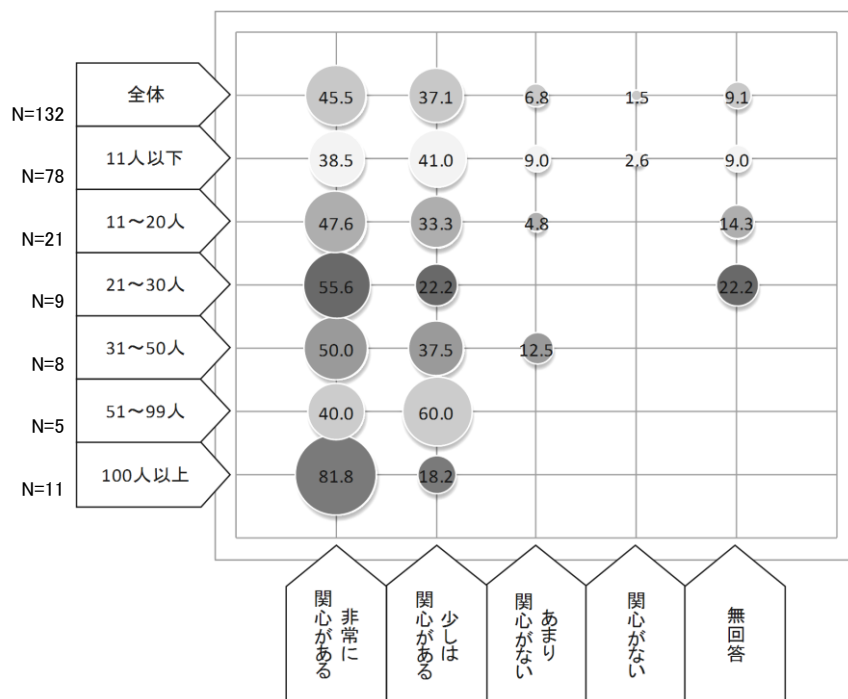


図 「事業者の従業員数」とのクロス集計結果

【事業者】

(N=133)

環境保全への意識に関する次の各項目について、貴事業所の考えに近いものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

- 今後の社会に対して、事業者よりも市民の方が悲観的な考えを持っている傾向にあります。
- 「環境への配慮は、事業者として必要な取組みであるが、そのための費用を商品や製品の価格に上乗せすることは、消費者の理解を得ることが困難である」と考えている事業者においても、環境への配慮のために価格への上乗せもやむを得ないと考えている事業者が多く、安価な商品や製品を提供するために環境への配慮を欠くことをやむを得ないと考える事業者は少なくなっていました。

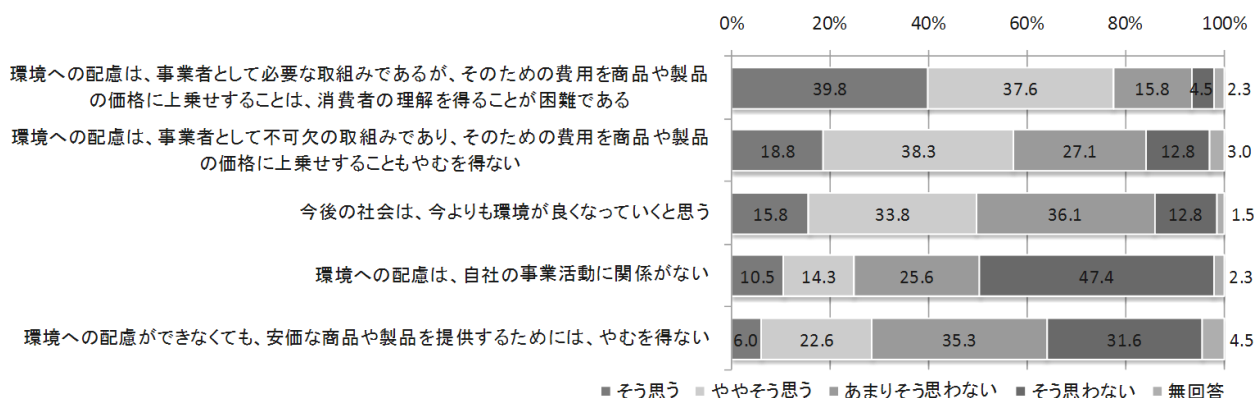


図 環境保全への意識

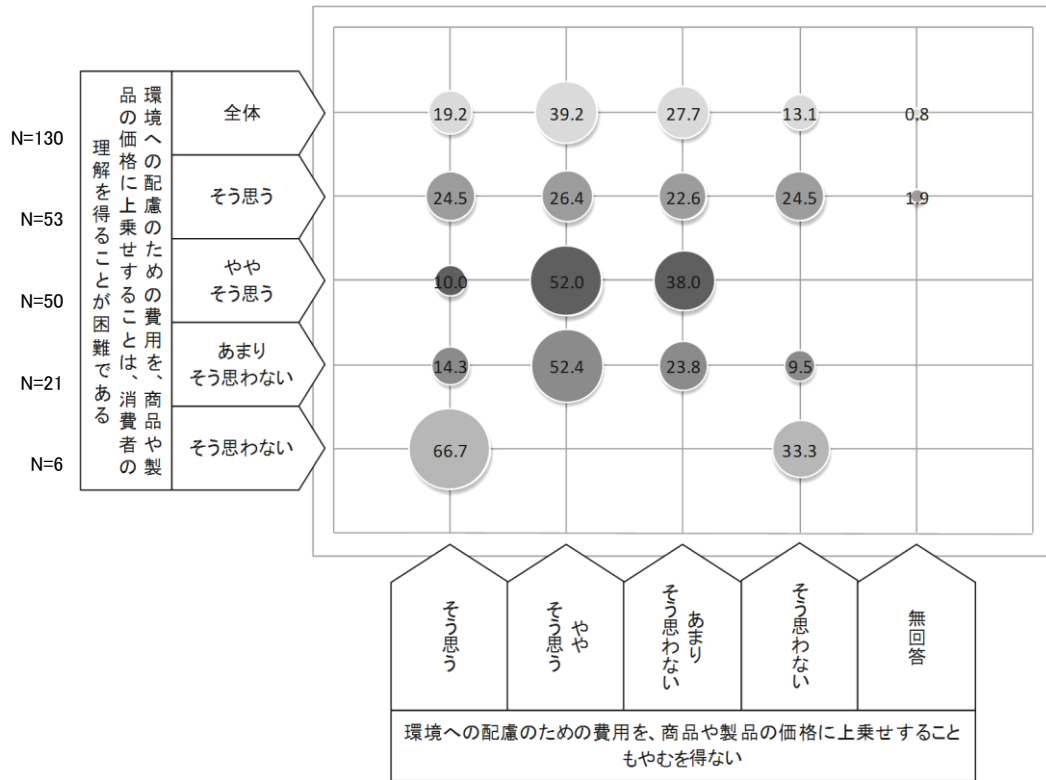


図 各回答のクロス集計結果

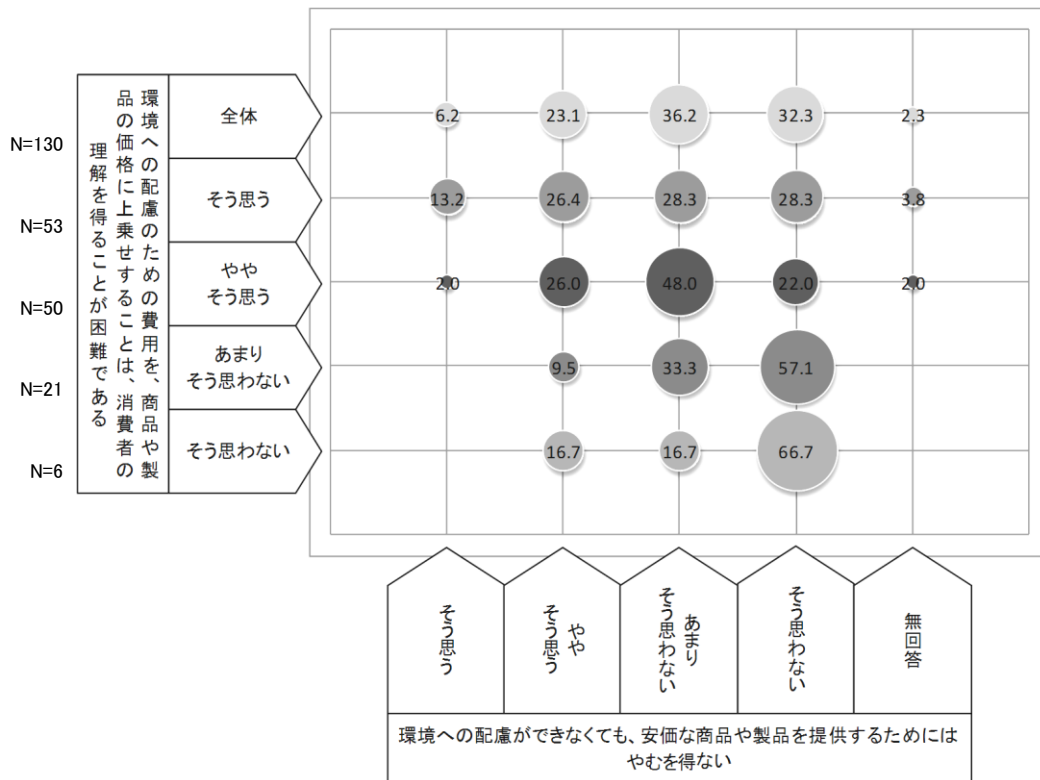


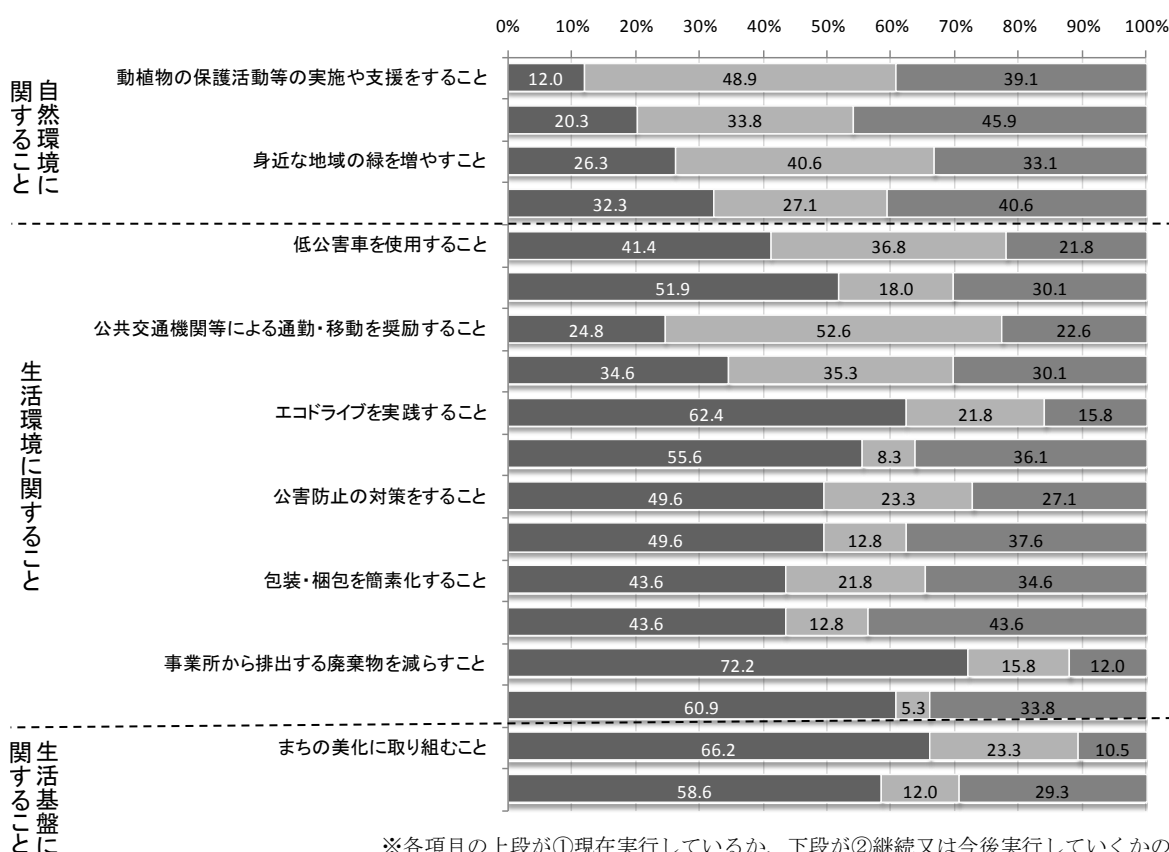
図 各回答のクロス集計結果

【事業者】

(N=133)

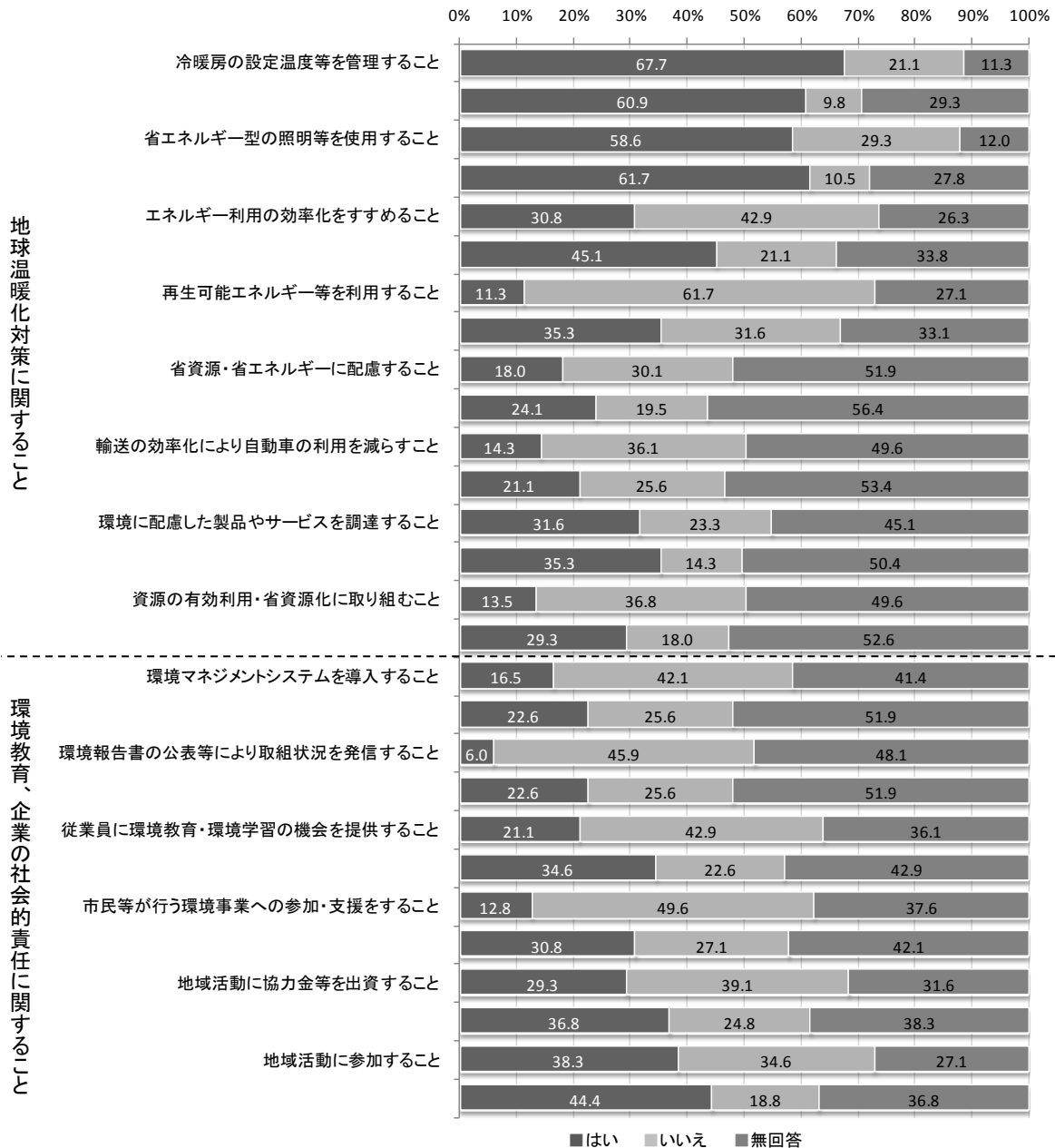
貴事業所では、環境の保全につながる取組みを、①現在実行していますか、②継続して又は今後実行していきますか。各項目について①及び②ごとに、それぞれ該当するものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

○地球温暖化対策に関することでは、「冷暖房の設定温度等を管理すること」や「省エネルギー型の照明等を使用すること」といった電力消費量の削減につながる取組みで実行割合が高くなっています。



※各項目の上段が①現在実行しているか、下段が②継続又は今後実行していくかの回答

図 環境保全につながる取組み (1/2)



※各項目の上段が①現在実行しているか、下段が②継続又は今後実行していくかの回答
 図 環境保全につながる取組み (2/2)

【事業者】

(N=133)

貴事業所では、環境保全に取り組むことでどのようなメリットがあると考えますか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○を付けてください。

- 「特にメリットはない」という回答は 9%であり、事業者にとって環境保全の取組みは何らかのメリットを生んでいると言えます。
- 事業所の規模別にみると、主だった傾向はみられないものの、従業員数の少ない事業所では、環境保全に取り組むことで自社にメリットはないと考えている事業所もあることがわかります。
- 環境への配慮のための費用を商品や製品の価格に上乗せすることをやむを得ないと考える事業者は、そう思わない事業者に比べて、職場の活性化・従業員の意識の向上にメリットを見ていました。

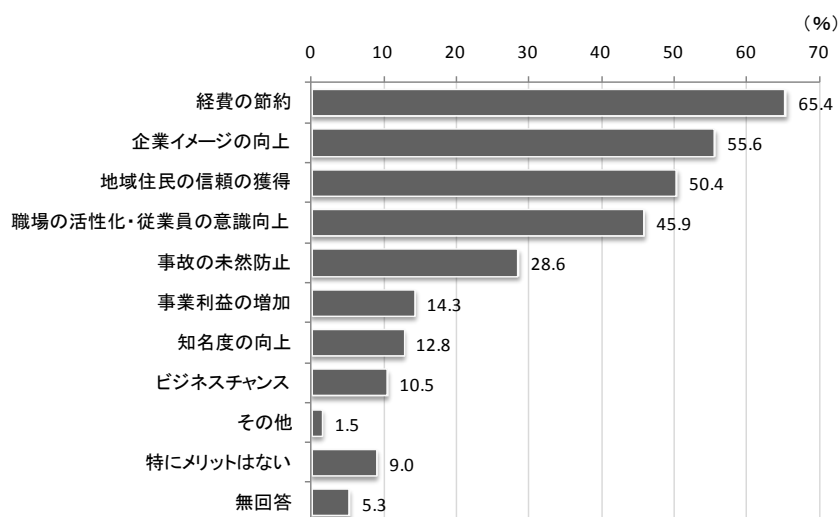


図 環境保全に取り組むことで得られるメリット

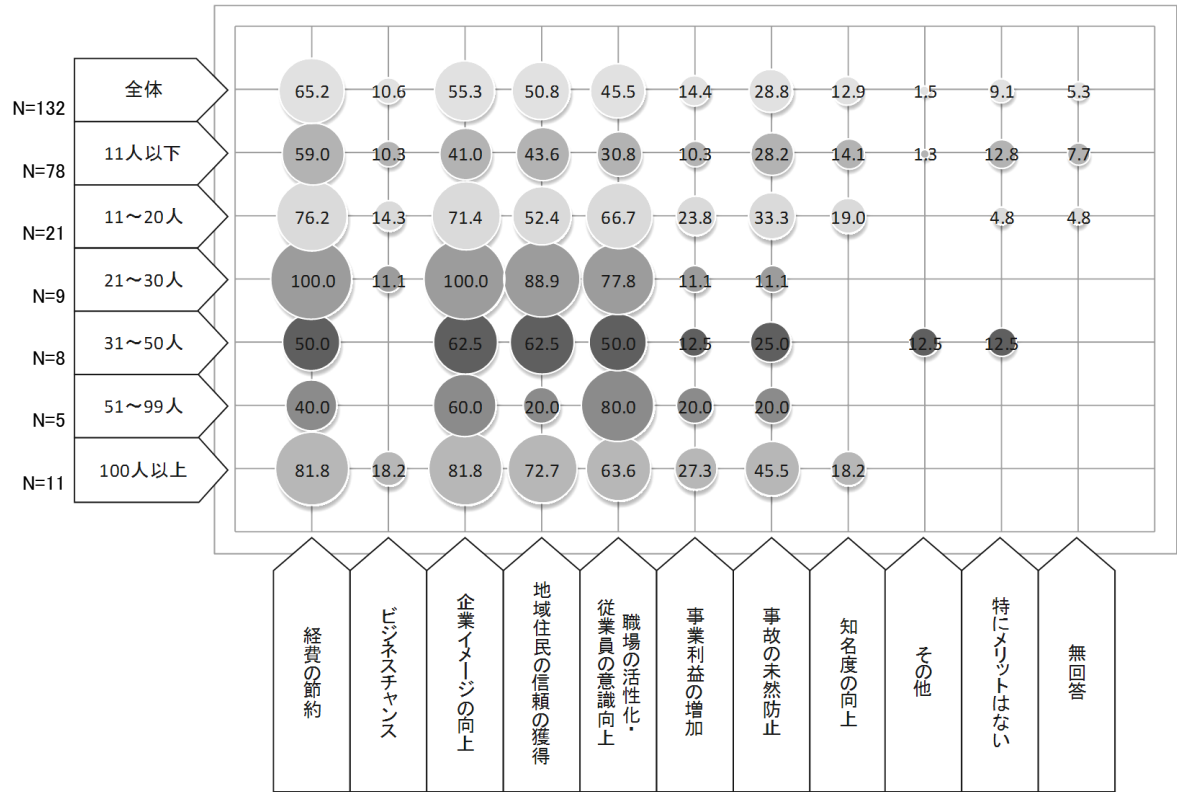


図 「事業所の従業員数」とのクロス集計結果

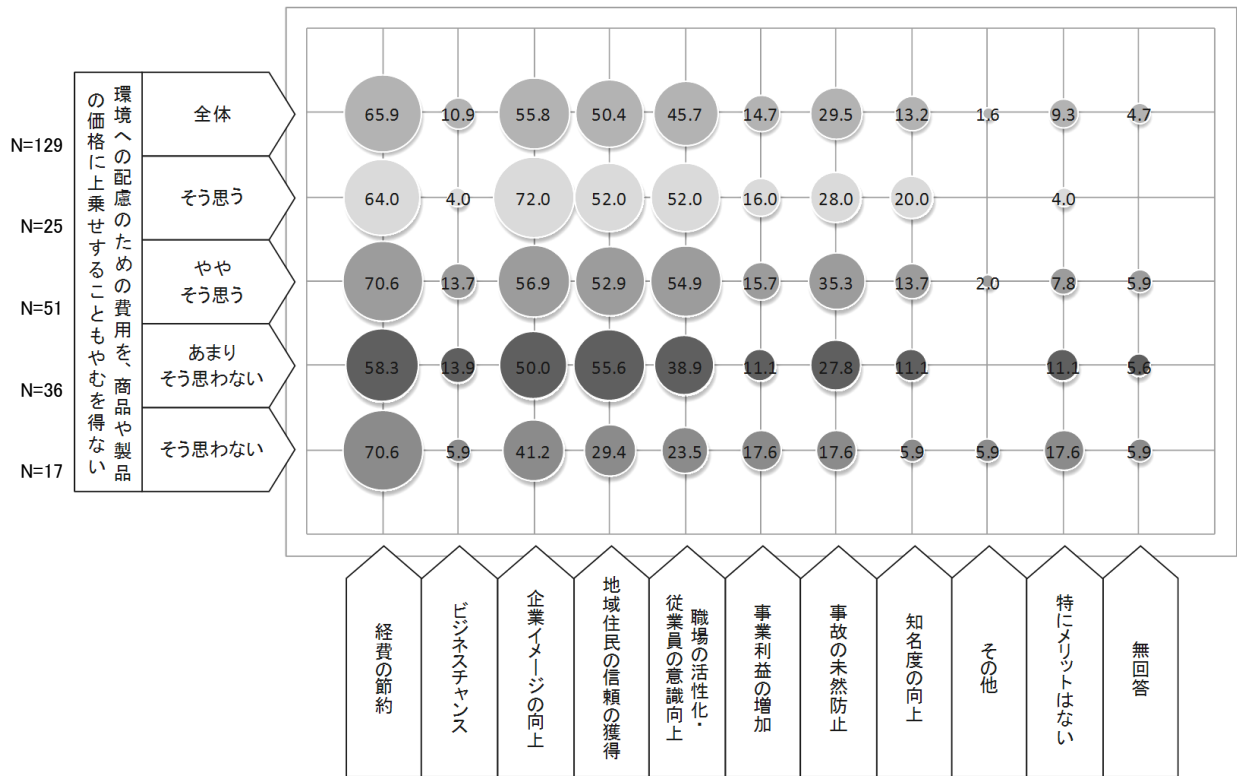


図 「事業所の業種」とのクロス集計結果

【事業者】

(N=133)

貴事業所では、環境保全に取り組む上で課題だと感じていることがありますか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○を付けてください。

- 環境保全活動に取り組む上での課題としては、「取り組むための資金が確保できない」「取り組むための人材・人手が確保できない」という回答割合が高くなっています。
- 「ノウハウが不足しており、技術的に困難である」「情報が不足している」といった課題も挙げられ、ソフト面の支援不足も大きな障害となっています。
- 事業所の規模別にみると、従業員数の少ない事業所では、「取り組むための資金が確保できない」という課題を抱える事業所が多く、ノウハウや情報については、事業所の規模に関係なく、共通の課題であることがわかります。

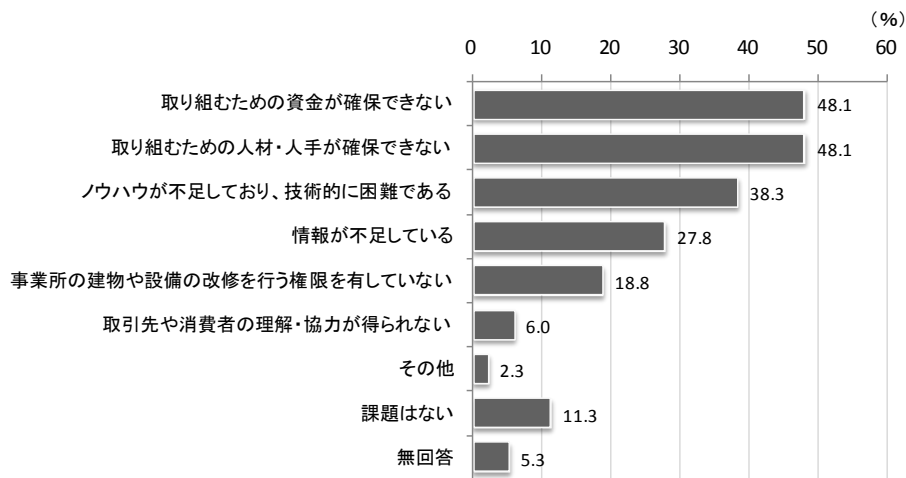


図 環境保全に取り組む上での課題

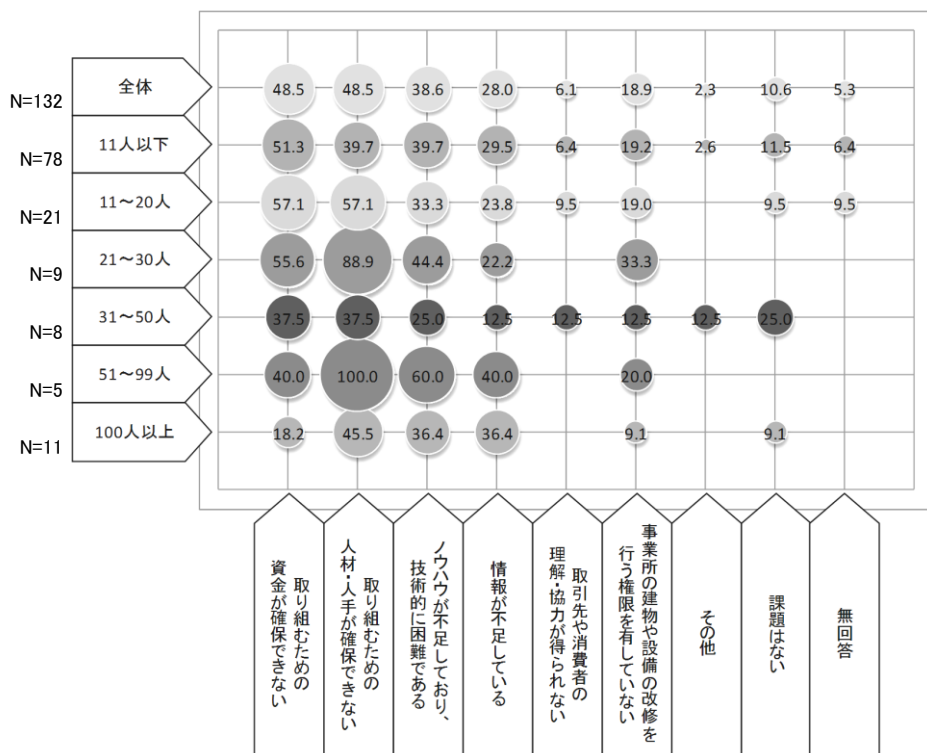


図 「事業所の従業員数」とのクロス集計結果

【事業者】

(N=133)

貴事業所では、今後どのような環境保全に取り組んでいく予定ですか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○を付けてください。

- 必要な限度だけでなく、可能な範囲で積極的に環境保全の取組みを行っていくとする事業者は、従業員数の規模に関わらず、多く見られます。
- 協働による環境保全の活動を自ら又はその支援を行おうとする事業者も 10%程度見られます。
- 従業員数の少ない事業所では、特に取り組む予定はないという回答が比較的多くなっています。また、従業員数の多い事業所ほど、事業活動や地域貢献として率先して環境保全活動に率先して取り組んでいく意向が高いことがわかります。

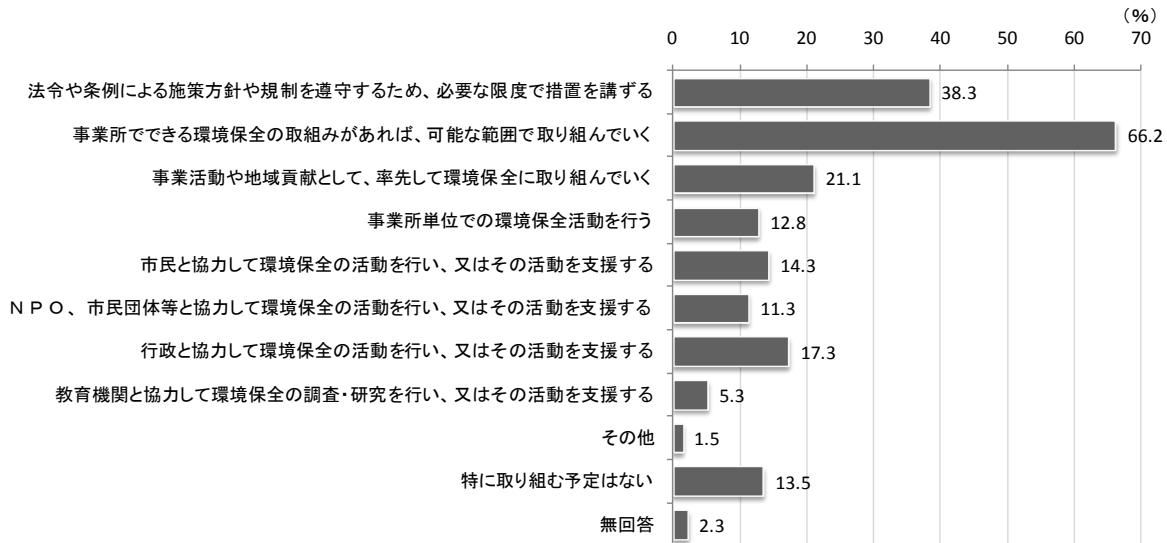


図 今後取り組む予定の環境保全の取組み

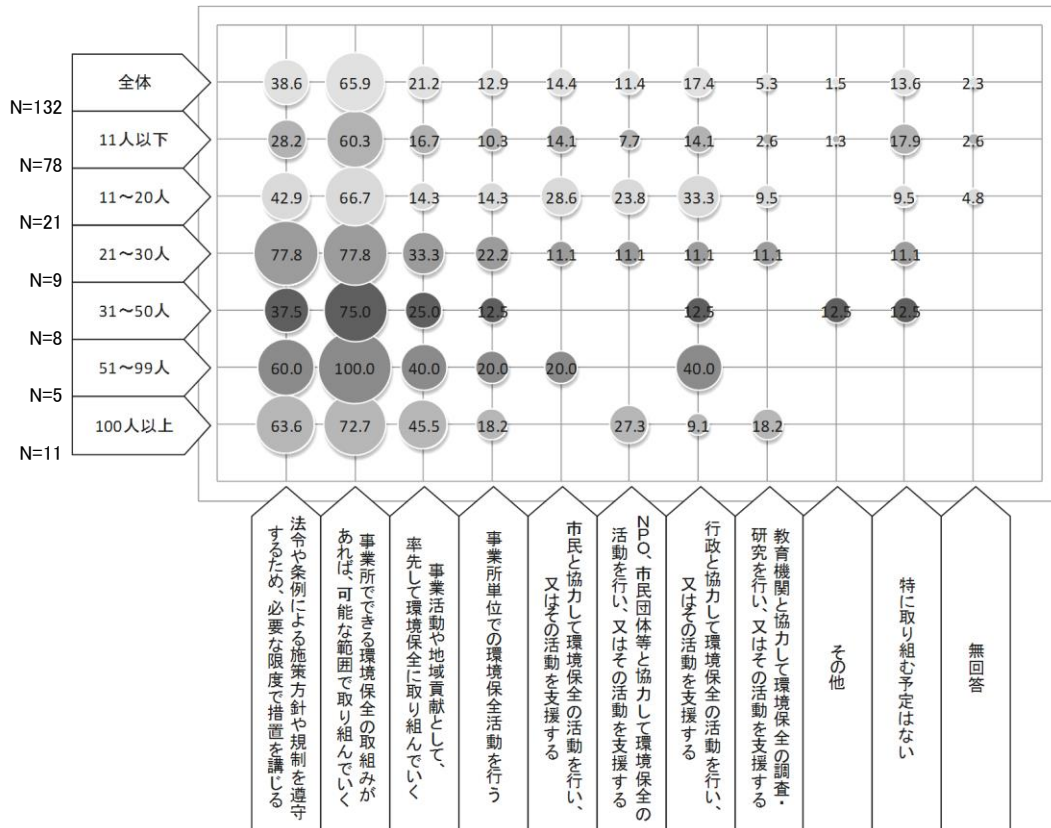


図 「事業所の従業員数」とのクロス集計結果

【事業者】

(N=133)

貴事業所が、より積極的に環境保全活動に取り組んでいくためには、どのようなことが必要と考えますか。あてはまるものを3つまで選んで、番号に○を付けてください。

- 直接的なメリットや財政支援があることで積極的に取り組みやすいことがわかります。
- 取組みの成果が目に見える形で実感できるということも重要な要素となります。
- 取組方法や環境問題の情報提供や技術指導等の支援については、全般的に要望度が低くなっています。

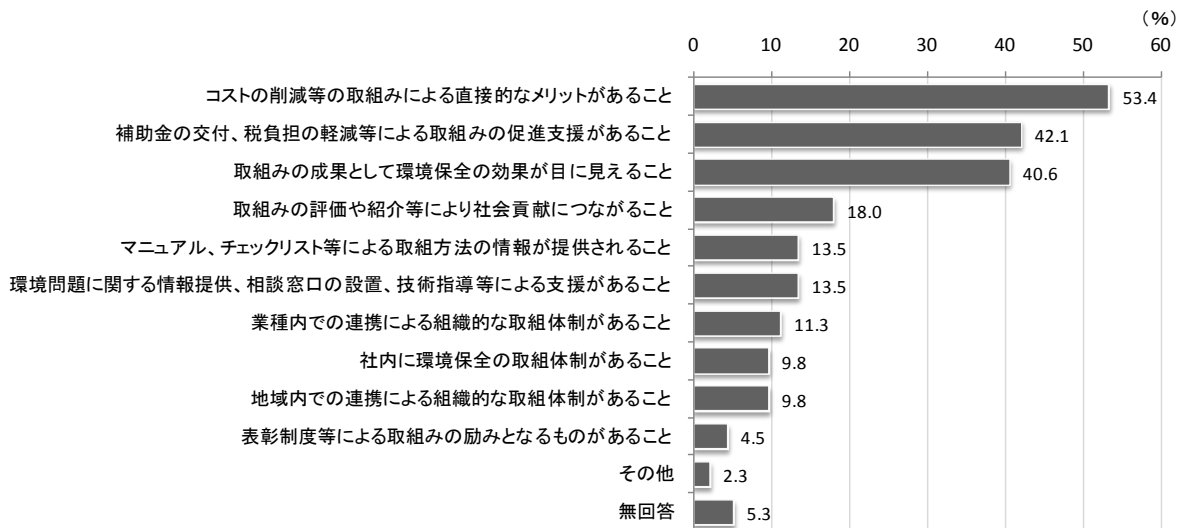


図 環境保全により積極的に取り組むために必要なもの

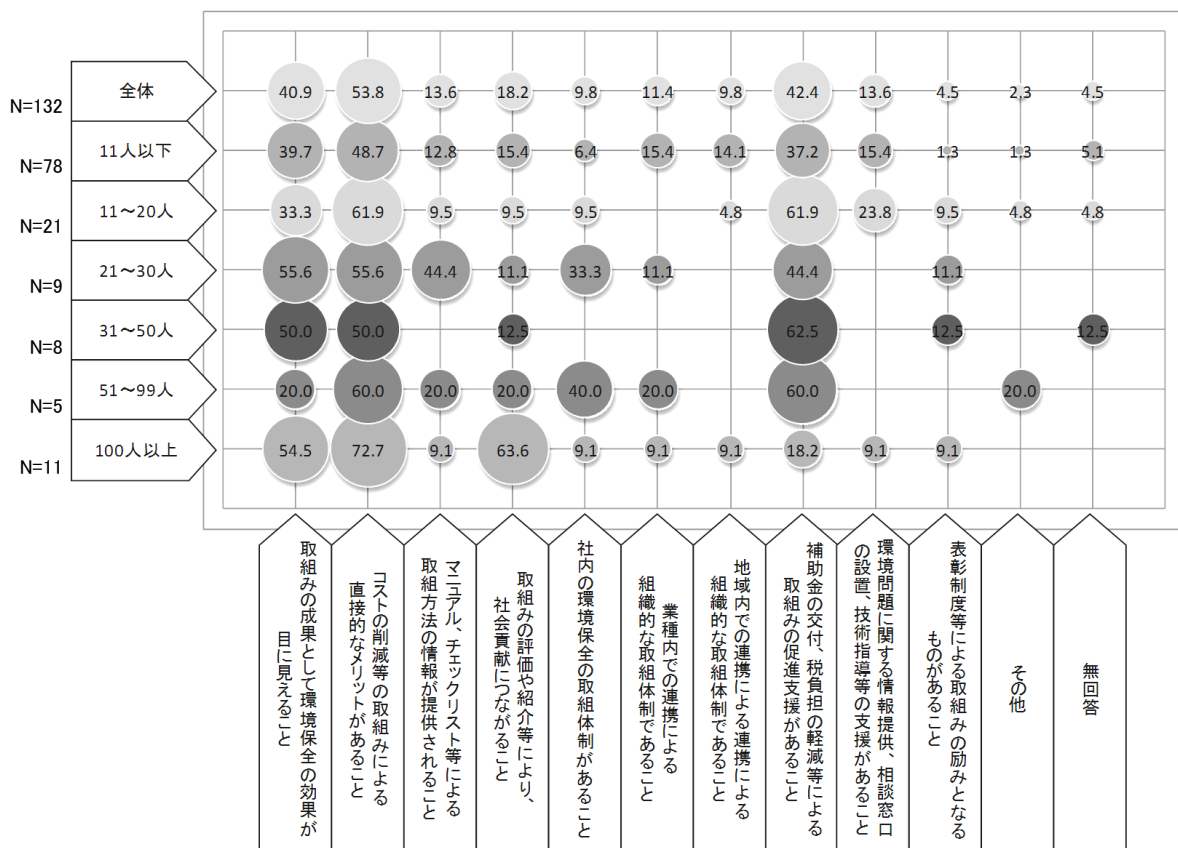


図 「事業所の従業員数」とのクロス集計結果

② 行政による環境保全の取組みについて

【事業者】

(N=133)

貴事業所では、これからの津島市の環境のために、行政として、どのような分野について重点的に取り組んでいくべきだと思いますか。次の各項目について、貴事業所の考え方に近いものを1つ選んで、番号に○を付けてください。

- 生活環境に関することについて、重点的に取り組んでいくべきという意見が多くありますが、これまで行政が重点的に取り組んできた分野でもあります。
- 環境学習に関することについては、わからないとの回答がいずれも3割前後を占めています。

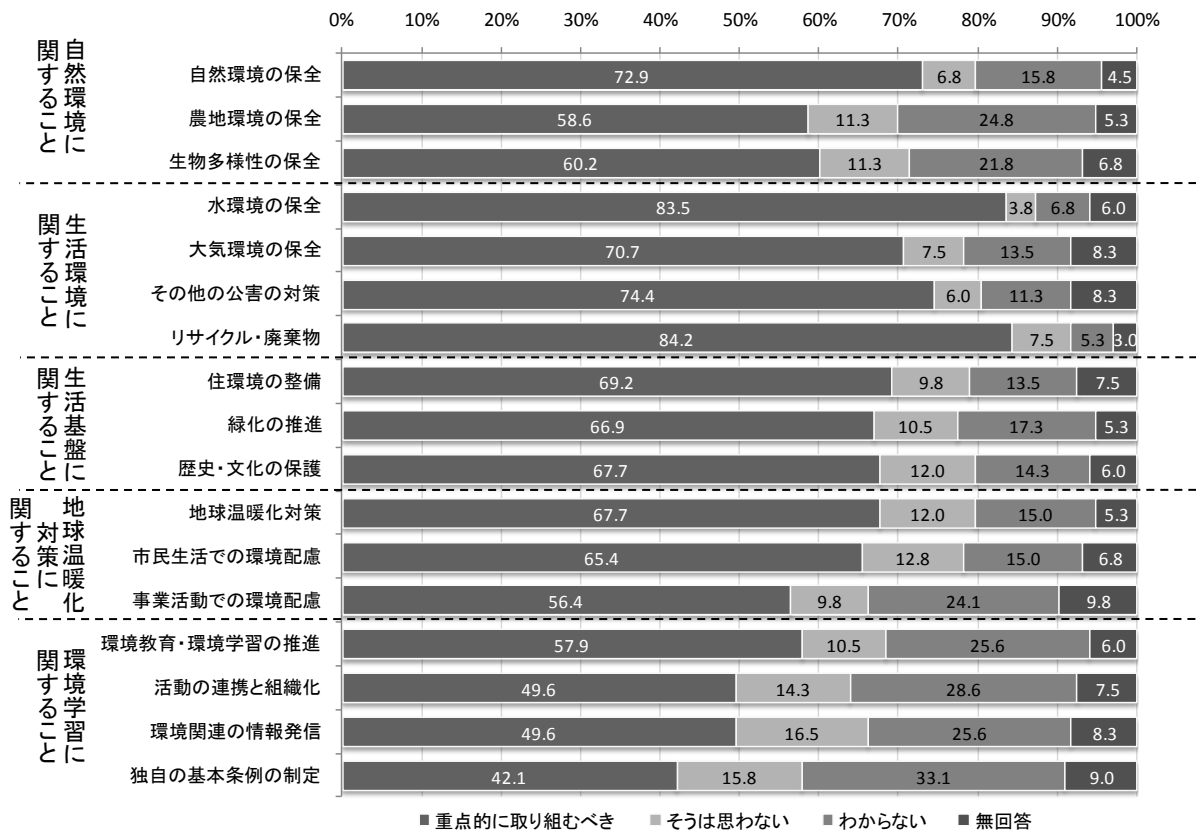


図 行政が重点的に取り組むべき分野

③ 将来の津島市の環境について

【事業者】

(N=133)

貴事業所が考える 20 年後の津島市において、こうあって欲しいと望む環境の姿について、あてはまるものを 3 つまで選んで、番号に○を付けてください。

- 「防災・減災の取組みが進んで災害に強い」については、市民に比べて低い結果となっています。
- 「川や池の水がきれい」、「歴史や伝統文化が息づいている」の項目の割合は、市民より高い結果となっています。

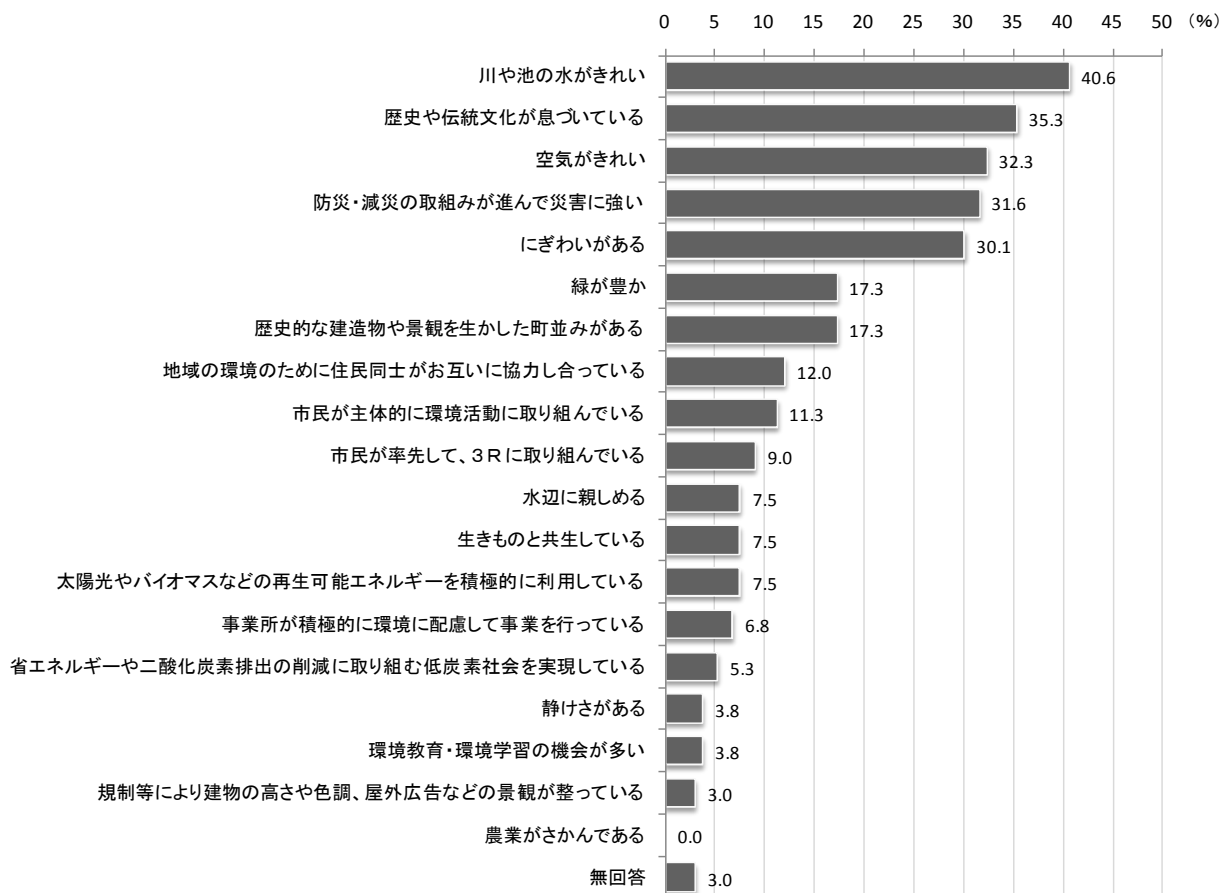


図 20 年後の津島市の望ましい環境の姿

【事業者】

(N=133)

20年後の津島市の環境の姿の実現に向けて、貴事業所が日頃行っていることや今後行っていき
たいことについて、自由に書いて下さい。

■主な回答（括弧内は回答件数）

- ごみ減量、分別、3Rの推進（10）
- 歴史文化の活用（9）
- 環境マネジメントシステムの導入（6）
- 防災対策（4）
- まちの活性化、まちづくりの推進（4）
- エコカーなどの利用（2）
- 再生可能エネルギーの活用（2）
- 自然の保全（3）
- 景観の配慮（1）
- 環境に配慮して事業を実施（1）
- 環境教育・環境学習（1）
- 環境に配慮した建物の設計（1）
- 歴史と伝統の町・津島のPRやイベントに協力する（1）

④ 津島市の環境に対する提案

【事業者】

(N=133)

津島市の環境について、ご提案がありましたら、自由に書いてください、

■主な回答（括弧内は回答件数）

- 道路などの交通環境の改善（3）
- ごみ分別、削減（3）
- 歴史文化の活用（3）
- ペットのマナー対策（2）
- 水質改善（2）
- 防災対策（2）
- まちの活性化（1）
- 地産地消の推進（1）
- 企業の誘致（1）
- 公園施設の整備（1）
- 生活エリアと商業産業エリアの住み分けが必要。インフラ整備も計画的に行う（1）

5

用語解説

あ行

エネルギーマネジメントシステム

電力使用量の見える化や再生可能エネルギーによる発電量のモニタリングによりエネルギーの需要と供給を把握し、制御する仕組みのことで、効率的なエネルギーの需給管理を行うためのシステムです。住宅向けの HEMS、商用ビル向けの BEMS、工場向けの FEMS、地域全体向けの CEMS 等があります。

エコドライブ

環境に配慮した自動車の使用方法のことで、不要なアイドリング、急発進、無駄な加減速をしない運転のほか、タイヤの空気圧チェックや不要な荷物をおろすなどにより、燃費の向上を図り、温室効果ガスの排出を削減します。エコドライブ 10 のすすめ（エコドライブ普及連絡会）として展開されています。

温室効果ガス

人の活動に伴って排出され、地球全体として、地表、大気及び海水の温度を上昇させる原因となる物質のことで、二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、フロンガス等があります。人為起源の温室効果ガスの総排出量の約 75%を二酸化炭素が占めると言われています。

か行

外来種

本来の生息地又は生育地以外の地域や生態系に、人為の結果として持ち込まれた生物のことで、国外だけでなく国内の他の地域から持ち込まれたものを含みます。外来種のうち、在来生物との性質の違いによって生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれのあるものは、特定外来生物と呼ばれます。

環境家計簿

家庭での電気、ガス、水道、灯油、ガソリン等の使用量や支出額を記録して、家庭から排出される二酸化炭素等の環境負荷を計算できるように設計されたツールのことで、エネルギー使用量の見える化に有効です。Web 上での入力可能な環境家計簿も増え、気軽に始めることができます。

環境マネジメントシステム

企業等の自主的な環境保全の取組みとして、環境方針・目標を設定し、その達成に向けて取り組むための体制や手続等を定めた仕組みのことで、その仕様や手引を定めた ISO14001 や中小企業用のエコアクション 21 等があります。

合併処理浄化槽

し尿（トイレの排水）だけでなく、生活雑排水（台所、洗濯、風呂等の排水）を併せて処理するもので、排水の汚れを取り除き、消毒して、きれいになった水を河川等に流すための設備のことです。窒素やリン等も除去できる高度処理型の浄化槽もあり、処理の方法によっては、下水道並みの水質を実現できるものもあります。

景観作物

耕作されていない農地等で栽培することによって、緑肥や雑草の抑制、病虫害の防除等に役立つとともに、地域の景観を豊かにする作物のことで、菜の花、レンゲ、ヒマワリ等の植物が使用されます。

耕作放棄地

以前は耕地であったもので、過去1年以上作物を栽培せず、この数年の間に耕作するはっきりした考えのない土地のことを言う統計上の用語です。一般的に遊休農地とほぼ同じ意味として扱われます。

さ行

再生可能エネルギー

一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇するおそれのない自然エネルギーのことです。太陽光、太陽熱、風力、地熱、バイオマス、地中熱、温度差熱等のほか、ダムの建設を伴わない小規模の水力発電も含まれます。

省エネ診断

電気や燃料等のエネルギーの使用状況や建築物の構造等を調査し、エネルギー使用の合理化につながる方策を明らかにすることです。省エネルギーの専門家が事業所や工場等を診断し、省エネに関する改善対策や設備投資等の提言を行います。

市民農園

主に都市生活者がレクリエーション、自家消費用の野菜や花の栽培等のために、農地所有者が貸付けを行う小面積の農地又はこれらが集合した農園のことです。

生態系

食物連鎖等による生きもの間の相互作用だけでなく、生きものとそれを取り巻く大気や水、土壌等の環境との間でお互いに関わりあいながら形づくる生きもの社会のまとまりのことです。

生物多様性

生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。様々な環境に適応して進化した 3,000 万種とも言われる多様な生きものは、すべて直接に、間接的に支えあって生きています。一般的には、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性という 3 つのレベルで多様性があるとされています。

た行

多自然型護岸(多自然川づくり)

これまで主流であったコンクリート 3 面張りの河川改修・護岸整備のあり方を改め、石や木等の自然の材料を使った護岸整備や本来河川が持っていた瀬や淵を作り出すことで、美しい自然景観を保全・創出するとともに、魚や昆虫等が生息・生育しやすい環境を再生する取組みのことです。

な行

農地中間管理事業

地域内の分散し複雑に入り組んだ農地の利用を促進するため、農地を貸したい農家から農地中間管理機構が農地を借り受け、まとまりのある形で農地を利用できるように配慮して、担い手農家に貸し付ける事業のことです。

は行

バリアフリー

高齢者や障がい者等が社会生活をしていく上で物理的、社会的、制度的、心理的及び情報面での障壁（バリア）となるものを除去（フリー）するという考え方のことです。似ていて異なる考え方に「ユニバーサルデザイン」があり、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、あらゆる人々が生活しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方のことです。

や行

遊休農地

現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き工作の目的に供される見込みのない農地のことです。一般的に耕作放棄地とほぼ同じ意味として扱われます。

英数字

BOD (Biochemical oxygen demand)

生物化学的酸素要求量のこと、水の汚れ（有機物）を微生物が分解するときに消費する酸素の量のこと、その値が大きいほど、汚れの量が多いことを表します。

ESD (Education for Sustainable development)

環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、これらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことです。